

大谷大学広報

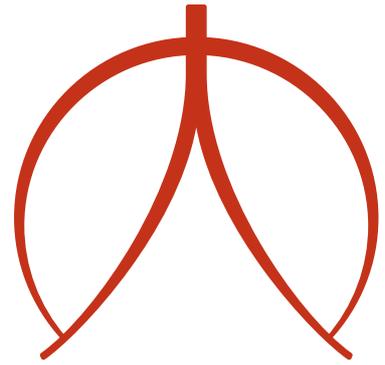
編集 大谷大学広報編集委員会

No.160

2005年1月11日

冬

2004



幼教フェスティバルより

私のお国ぶり・お正月料理 学問のしおり

いつのまにか
チベットのあるところに
福田 洋一

2004年度クラブ秋季大会結果

2005年度
カリキュラム改革の目指すもの
～大学教育へのスムーズな
移行と体系的な学習を支援～

谷大エリア散策

堀口大学堂

写真でふりかえる大谷大学今昔
「紫明近隣昔の写真展」開催

SQUARE

新紙幣への思い
平野 寿則

冬扇

昨夏、酷暑の日本を離れて、ノルウェー北端に近いアルタの町に滞在した。北緯70°である。20年近く前に見た岩絵が気になっていたのだが、いくつか文献も読んだので、痛む腰をあげたのである。約1万年前に氷河が融けると地盤が隆起し始め、新しい土地に入った狩人たちが、岩の表面にトナカイ、ヘラジカ、クマ、ハクチョウ、クジラなどの動物像を描き、弓矢でそれらを狙う者、ボートからオ

ヒョウを釣り上げる者、ドラムをたたく者、踊る者などを描いた。太陽らしいものが船の上に描かれ、船上に浮遊するような人間もいる。その後地盤は隆起し続けたから、最初水辺に描かれた絵は高く上り、下に新しい絵が描き加えられた。約5千年間の人々の暮らしや心が岩絵を通して辿れるはずである。

彼らはなぜこんな絵を残したのか。誰に何を語ろうとしたのか。狩猟の成功を祈ったのか、神話の

世界を描いたのか。シャーマンやトーテムと関係するのだろうか。老いの身で心ときめくこのごろであるが、現代の合理主義に頭を委ねてしまった私に答えが見つかるだろうか。本当に夏の炉を欠かせぬ土地で、夏炉冬扇の世界をさまよう気分である。

(塚田 秀雄)

私のお国ぶり・お正月料理

♪ も〜いくつね〜る〜と〜お正月〜 ♪

お正月の楽しみは、お年玉、おせちやお雑煮といったお正月限定グルメでしょうか。日本各地にほっこり料理やびっくり料理が数ある中で、大谷大学がある京都の白味噌雑煮も有名です。

生まれ育った地元を離れて、改めて気づく郷土のお正月料理のよさ。その味はふるさとでの家族団らんと共に年に1度よみがえるのでしょうか。

みなさんのふるさとのお正月料理はなんですか？



すき焼きと餅菜

清水 智樹

私のふるすとは愛知県三河地方の小さな町。地元の人には、昔のなごりで「今村」（いまむら）と呼ばれている。トヨタ自動車のお膝元ということもあって、ここ数年でずいぶん都市化が進んだけれども、田舎らしいのんびりとした気風は、昔とそんなに変わらない。

正月料理といえばまずおせち料理が頭に浮かぶが、今村のそれにはこれといった特徴はないように思う。そこでおせち料理を脇に置いて考えてみると、今村ならではのものとして、大晦日のすき焼きとシンプルなお雑煮に行き



大晦日のすき焼き

当たった。

大晦日の晩に家族ですき焼き鍋を囲むのが、いつのころからかわからないけれども、今村の習慣になっている。これが無いと1年が終わらないし、次の年も始まらない。大晦日になると、近所の精肉店ではグラム1,000円を超える高級牛肉が飛ぶように売れていく。味付けは、割り下を使わずに砂糖・しょう油・酒を鍋に直接ふり入れて、野菜から出る水分で煮込む。

野菜といえば、すき焼きにはネギが付きもの。5年ほど前の12月、村境にとある大手スーパーが進出したときのこと。出店直後ということもあり、大晦日にはすき焼きの材料を求める人でごった返した。大晦日にはすき焼き、という習慣をスーパー側が知らなかったためだろう、ネギがあつという間に売り切れてしまい、他の店へと急ぐ客、急遽ネギを仕入れに走る店の人etc.……と店をあげての大

騒ぎとあいなった。今はその時の教訓が活かされて、大晦日には大量のネギが並ぶようになったけれども、あの騒動は今でも印象に残っている。

さて、正月料理のもうひとつの主役、お雑煮に移ろう。今村も含め、三河地方のお雑煮はいたってシンプル。鰯だしベースの澄まし汁に、焼かない角餅と「餅菜」が数枚つかるだけ。あとは好みで鰹節をふりかけたりする。全国一のシンプルさではないかと思う。

このお雑煮唯一の彩りが「餅菜」というわけだが、この餅菜、意外に知られていない野菜のようだ。ゼミで聞いてみたところ、滋賀県より西の人は知らないそうで、もしかしたら関ヶ原か鈴鹿の関から西へは伝わらなかったんだろうか、と勝手な想像をしたりもする。

餅菜は、小松菜が大きく育ったものというのがその実態で、しゃもじを縦に引きのぼしたような格好は、言われてみれば小松菜そっ

くり。毎年冬になると、近所の畑で栽培しているのをよく見かける。そのためすっかり一般的な野菜と思い込んでいたのが、いろんな人に知らないと言われて、驚いてしまった。思いがけないところに地方色が出るものだ。

ところでくだんのネギ騒動、大騒ぎの裏で餅菜もいつの間にか売

り切れてしまっていたらしい。お雑煮では餅の尻に敷かれ、スーパーではネギの後塵を拝する。しかも活躍するのはお正月の1週間だけ。なんとも控えめな菜っぱである。

(しみず ともき
博士後期課程 仏教文化専攻)
第2学年

おせち料理と母の手



野村 温子

寒さも一段と厳しくなってきた今日この頃、皆さんは新年をどのように過ごされたのだろうか。私は現在京都に住んでいるが、出身は兵庫県であり、正月前後は、毎年欠かさず帰省する。そのため、日々生活する京都の家で、新年を迎えたことがない。

お正月を迎えるまでの準備は忙しい。掃除や飾りつけ…色々あるけれども、おせち料理は、お正月の食卓にはなくてはならないものである。年末の母は多忙である。様々な仕事をこなし、その上、おせち料理にも取りかからなくてはならない。私にとっておせち料理とは、母の味だと言える。その中でも、特に黒豆は大好きで、コトコト煮える甘い香りが部屋に広がると、今年もお正月が来るということを感じさせられるのだ。おせち料理を作る母のうしろ姿は、いつものうしろ姿よりも大きく見える。次々と料理を作り上げていく母の手を見て、私にとって1人の女性として、憧れ、尊敬できるのが母だと感じる。

そして、おせち料理とは直接関

係ないのだが、元旦から3日間行うことがある。それは、祖母が昔から伝わってきたことだから、と毎年出す飲みものことだ。家族のみんなの湯のみ茶碗外側の底に、それぞれの名前を書き、中には梅干しを入れ、お茶をそそぐ。そして、おせち料理を食べ終わった後に飲むのだ。同じように、翌日も行い、3日目に中に入っている梅干しを食べる。梅干しを食べるタイミングは3日目と決まっている。以前、何か意味はあるのかということや、なぜこのようなこ



野村家特製 梅干し入りお茶!

CONTENTS

- p. 2…私のお国ぶり・お正月料理
♪も〜いくつね〜と〜お正月〜♪
- p. 9…CAMPUS☆TOPICS
- p.17…「学生向け情報提供システム」
からのお知らせ
- p.18…紫明祭を終えて
- p.20…2004年度 秋季大会結果
- p.22…Keiji☆Ban
- p.28…2005年度カリキュラム改革の
目指すもの
—大学教育へのスムーズな
移行と体系的学習を支援—
- p.30…2005年度学費について
- p.31…2005年度公募制推薦入試結果
2005年度大学院秋季試験
(修士課程) 結果
- p.32…学問のしおり
- p.33…谷大エリア散策
- p.34…写真でふりかえる大谷大学今昔
- p.35…学生相談室から
- p.36…出版物紹介
- p.37…研究室だより／学会だより
- p.38…大谷中学・大谷高等学校からの
お知らせ
九州大谷短期大学からの
お知らせ
- p.39…2005年度学年暦
- p.40…SQUARE

表紙のことば

歓声と大きな拍手
幼き瞳が三日月型になるように
幕がおりきる一瞬まで
歌った! 踊った!
チョー気持ちいい!

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたたぬことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

2005年1月11日発行
発行 大谷大学企画室
編集 大谷大学広報編集委員会
〒603-8143
京都市北区小山上総町 大谷大学企画室内
電話 (075) 411-8115
FAX (075) 411-8149

とをするのかと聞いたが祖母はくわしいことは知らず、昔から伝わってきたことだということ以外、私も知らない。

年に1度の新年の食卓を華やかに彩る、おせち料理。土地や時代

により、多様に変化をしていることであろう。けれども、各家庭によってあり方や伝統は様々である。おせちとは、伝統を伝えながらも、実は柔軟な食文化とも考えられる。大切なのは、おせち料理

にこめられた心を知ることなのかもしれない。目に美しく味わい豊かなおせちには、不思議な魅力がある。

(のむら はるこ)
(文化学科 第2学年)



私のお正月

島添 宗子

私の実家は九州の福岡にあります。京都で暮らすようになって3年目になります。いまだに様々なカルチャーショックを受けています。特に言葉の違いには、戸惑うことが大変多く今でも分からないことが多々あります。言葉以外にも風習が地域によって随分異なると感じさせられます。そこで今回は私の家のお正月の迎え方について紹介したいと思います。

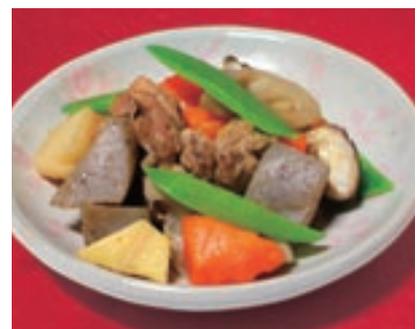
私の家はお寺ということもあって、年末は大変忙しいです。まずはもちつきです。私が小学校低学年の頃までは、うすときねで行っていたのですが、最近は機械でやるようになってしまいました。おそらく普通の家庭では想像つかないほどの、大量のおもちを作ります。もちつきが終わると次に大変なのは大晦日です。私の家では、除夜の鐘をつきにきてくれた方々に、年越しそばを振舞います。これもまた給食か?と思うくらいの量です。私はここ何年か、そばを作ったり運んだりしてる間に新年を迎えてしまっています。でも、

そんな忙しい合間におせち料理やお雑煮を作ってる母の要領の良さには、感心させられます。お雑煮は地域によって味が異なるようです。関西ではお雑煮の味は白味噌だと聞きました。私の家のお雑煮の具材は、ごぼう・レンコン・人参・おもち、そして小さく切ったするめと昆布です。このするめと昆布でだしを取り、うすくち醤油で味付けをします。私はこのするめと昆布を見ると、幼い頃、姉と祖母がはさみで切るのを手伝っていたことを思い出します。祖母が亡くなった今でも鮮明に思い出されます。またおせち料理で私が好きな一品は、筑前煮です。私の地元では筑前煮の事を、がめ煮と言います。その他にも黒豆や栗きんとん、ぶりの照り焼きやローストビーフなどを四段の御重箱に詰めます。今年のおせち料理には、私が作ったエビチリも仲間に入れてもらいました。これからも少しずつ母の仕事を覚えていけたらなと思います。

このようにお雑煮の味付けなど

お正月の迎え方は地域や各家庭によって異なります。私は京都の大学に出てきた事で、今までとは違った文化に触れることができ、そして改めて地元の文化の良さに気付く事ができました。私はこれからいろいろな人と会う中で、今まで私自身が普通だと思っていた事がそうではなかったと感じる事がたくさんあると思います。それを自分自身の事や生まれ育った環境を見つめ直すよい契機にしていきたいと思います。

(しまぞえ ときこ)
(国際文化学科 第3学年)



がめ煮



年夜飯——思い出の春節料理

顧 宇

旅人の私にとって、日本の留学生活は、もうすでに6つの春秋を経ています。その間に何度も里帰りしましたが、雪の降る冬になると思い出するのは、やはり、北国の故里の春節でした。氷点下30度を超える寒さにもかかわらず、お正月が近づくと、温かい雰囲気が街の隅々まで溢れていきます。

中国のお正月には、殆どの人が10日前後の長い休暇を取ります(ちなみに、病院、消防などの施設以外、日本のお正月とは違い、デパートやスーパーなども閉まります)。春節料理の準備をするため、お正月前に、人々は色々な食材やお祝いの品物を買ってきます。お正月に、爆竹や花火を放つのは中国の伝統風習です。応じて、臨時的に爆竹を売る市場も設けられます。ずらりと並ぶ赤色を主とした爆竹や花火が、買い物に来た人たちの華やかな笑顔をさらに温かく映します。普段は静かな街が、一瞬にして賑やかになり、誰でも、その喜びの雰囲気をたっぷり味わえるのです。

お正月のクライマックスは、なんと言っても、除夜の“年夜飯”です。中国では、各地に分散する

家族全員が、どこにいても除夜前に、必ず故郷にいる親の元へ帰る習慣があります。

“年夜飯”は“団年飯”とも言えます。私の故里——長春では、中国東北地方の松遼平原にあって、“年夜飯”には“水餃子”(ギョーザ)を食べるのは定番です。すでに家庭料理として、普通の家族の食卓に並べられる“水餃子”も、除夜に食べる“水餃子”には、特別な意味が含まれます。昔の中国で、時間を計算するのは干支法であって、真夜中を“子時”(pm11:00—am1:00)と呼びます。“子時”になると、新しい1年が始まるのですが、時刻の交代は“交子”とも呼ばれます。ダジャレで、“餃子”を食べるのは、“新年あけまして、おめでとうございます!”“すべての願いが叶いますように!”などの願いがこもっています。また、“餃子”の形が元寶(過去に通貨として用いられた馬蹄銀)とよく似ているので、“招财進寶”(富をもたらし、福の神が舞い込むように)という意味も含まれます。最近では、硬貨を具の中に入れて、食べ当たった人は、新しい1年に幸運が訪れると

いう説もあります。

除夜は子どもにとって、1年で1番の幸せな時とも言えます。“子時”になって、子どもたちは年輩の人たちから“压岁钱”(お年玉)を貰い、“餃子”を食べたあと、家族全員が外に出て、爆竹を鳴らしたり、花火を打ち上げたりします。人々の目や耳が爆竹の光や響きでいっぱいになり、あつと言う間に、火薬の匂いがあたりを包みます。翌朝、外に出ると、真っ白な雪国は、彼方此方で爆竹の痕で紅色に染め変えられています。お正月がより一層おめでたい喜びの雰囲気に染まります。「あ～～、なつかし～～い!」

(コウ
博士後期課程 仏教文化専攻
第3学年)



春聯兒を貼り福を願う

Sweets

木村 優



2004年が終わりと、2005年、新しい年を迎えた。私たちのお正月の

楽しみは、家でのお正月番組を見ながらお正月料理を家族で

いただくこと。四国、香川県は私の地元である。私が幼少から高校

2年まで過ごしてきたところは高松市より少し東に位置する小さな町。毎年祖母は家族の誕生日など祝い事の日には必ず赤飯を炊いてくれていた。特にお正月には餅つきからおせちにいたるまで親戚一同で準備し、集まって宴会となるような家で育った。木村家の本家本元であるため日本全国へ嫁いだりして散り散りになった木村家一族の20人くらいがこの日に集結する。だから、のんびりお正月番組をみながら、という訳にはいかない。年末からお正月の準備に追われ、大掃除から餅つきに至り、年を越し元旦を迎えると忙しさはピークに達する。家の者はお給仕をしながら合間を見て料理をつまむか最後の最後にいただく程度。それが終われば片付けが待っている。

元旦に振舞われるのは、もちろんおせちやお雑煮であるが、香川県のお雑煮はとって甘いい。母と私は甘いものが苦手だったので合わせ味噌、赤味噌や、おすましに

普通の白い、何も入っていないお餅を入れている。私の父と弟は祖母の作ってくれる甘いお雑煮をおいしそうに食べる。その甘いお雑煮とは、白味噌にあんこの入ったお餅を入れたものである。白味噌とは米麴を多く用いた甘味に富んだ味噌で、京都の西京味噌が有名であるが、香川県の多くの家庭では普通の白味噌を使っている。お雑煮のお餅は丸餅で焼かずに煮込み、祖母はそれに加え、大根の半月切り、お豆腐、出来上がりに花かつおに青のりをのせる。このお雑煮は祖母の祖母から代々受け継がれているという。どうやら西日本では味噌仕立てで具沢山のお雑煮が主流のようである。

昔香川県では、砂糖は贅沢なものとされておりお正月のような祝い事の時にあんこ餅として食べられていたようである。この一見、あんこ餅と味噌汁の想像しがたいお雑煮は他県の人々に意外にも好まれているようである。実際、今流行りのSweetsの感覚で案外イケ

る。高松藩主、松平頼重により高松市内に築造された栗林公園では、毎年年初に観光客に向けて、この白味噌のお雑煮が振舞われている。寒い中、ホクホクとおいしそうにほおばる人々を見ると、「遠おから香川県によお来たの、ようけ食べて行ってえた」と私はテレビのブラウン管越しに思う。

21年間、香川県のお雑煮しか見たことがなかったので、地域ごとに特色あるお雑煮に今回私も出会いたい!と思った。

(きむら ゆう
国際文化学科 第3学年)



あんこ餅入りのお雑煮



我が家の団欒

松原 文孝

私は福井県の田舎、武生市と越前岬の中間にある宮崎村という所で育ち、ここでの正月といえばまず暮れの餅つきからでした。私の里では春の田植え、秋の稲刈りなど大きな行事ともなれば近くに住む親戚が集まり協力して行っており、餅つきも同様に叔父や叔母、いとこ達と楽しくやれる行事でした。早朝からかまどに火をつけ、もち米を蒸す匂いが家中に立ち込め、男達は煙草を吸いながら話をし、女達は準備に忙しく動き回り、

いよいよ餅つきともなれば、父の力強い杵を打つ音、姉さんかぶりをしてかいがいしくかけ声をかける母、2人が息を合わせてつく風景は子供心にとてもうれしいものでした。鏡餅から始まり、雑煮用の丸もち、豆餅等色とりどりのもちが部屋いっぱい並びます。また、搗きたての餅をおろし大根で食べるおろし餅や小豆餅は格別においしいものでした。また、年越しの大晦日には祖母が自慢のそばをうちます。おろし大根、きざみ

ねぎ、削り節にかけ汁をかけた、いわゆる越前そばは福井県では代表的な晦日そばです。そして、年が明け、正月となれば、神棚と仏壇に鏡餅を供え、まずは、近くの神社にお参りに行きます。その後、家の仏壇で父のお経で皆が拝み、それが終わって、ようやく正月料理をいただくといった様子でした。雑煮は、昆布だし、田舎味噌の味付けで具はなく、丸餅だけで削り節を振りかけるのみ。きわめてシンプルなものです。その他に

は、昆布巻き、サトイモや大根など収穫した野菜の煮物や和え物、それから冬の荒波でとれる越前の「せいこがに」です。この蟹の魅力はこくのある味噌にあり、この味噌と足の身を混ぜあわせてしょうゆを少しかけて食べるのが一番です。それに、甘えびです。京都で生活を始めた頃、甘えびと越前蟹をお土産に差し上げたところ、大変喜んでいただいたのはよかったのですが、甘えびを天ぷらに、蟹ををなべ料理でめしあがっておられたのはとても残念でした。それからまだあります。一夜干しのかれいです。干すことによって甘みが増し、少し焼いて食べれば絶品です。このように海の幸と里の

幸をいただきながら過ごした思い出は私の心を今も温かくしてくれています。それは、多分、種まきから収穫までの労働によって口にする喜びを両親から感じ、家族そろって正月を祝ったところにあるのではないかと思います。

結婚後、京都で過ごし始めて30年、我が家の年の瀬、正月と言えば、買ってきたおそばとお餅で味付けだけを受け継いでいるといった様子です。正月のおせち料理は、共稼ぎでやってきた私としては、日頃の手抜きをここで挽回したいとの思いで腕によりをかけられるので、都合がよい料理でもあります。今では、家族も増え、一家団欒を何よりも大切だと感じ、これ

からも大事にしていきたいものだと思います。

（まつばら ふみこ
進路就職センター 職員）



せいこがにの味噌和え
写真提供：越前 蟹の坊

私の原風景—光と影—

大城 邦義



もう30数年も前のことになる。静岡県藤枝市在住の作家・小川国夫さんが、お正月のテレビのインタビューの中で、静岡県人の長所と短所に触れられたことがあった。物静かに淡々と語られていたが、しかし言葉は重たく私の中に響いた。「太平洋岸を北の果てからずっと降りてくるとわかりますが、静岡県に入ると光が変わるのです。浜名湖を通り過ぎ静岡を出るとまた変わります。静岡県のところだけ光が違うのです。それはちょうど地中海沿岸と似ています。静岡は独特の光の明るさをもっているのです。また静岡は風が強いところですね。風はものをとどめることをしないで、何もかも吹き飛ばしてしまいます。その気候風土が私たちに長所となって現れている面と短所になっている面

と、両方あります。私たちはそのことを自覚的に受け止めて、静岡という風土における文化を考えていかなければいけません。」という内容であった。そのときのことは、小川さんの透明な眼差しとともに、深く私の中に焼きついている。

これも30年ほど昔のことになるうか。初めて妻を冬の静岡市に連れて帰ったときのことである。真っ青な雲ひとつない空から陽光が燦々と降り注いでいるさまに、「お正月とはとても思えないわ!!」と驚きの声を発したのである（妻は東北の雪国出身である）。また久能山に連れてゆき、山上から風いだ駿河湾の水面を見たが、山上の強風とは対照的に静かで、目映いこと、鏡を敷き詰めたようで、えもいわれぬ明るさと美しさであ

った。

私の記憶はさらに遡る。

物心がついた頃から、お正月が近づくと、日曜日を利用して、父母は畳を上げて大掃除をし、障子を張り替えていた。暮れの30日頃になると、近所の和菓子屋さんについてもらったお餅を、母が数センチ角に切り餅箱に入れるのを手伝った。父は玄関にしめ飾りをかけ、またいくつかの小さな鏡餅に小さなしめ飾りをつけて和紙に乗せ、仏壇・神棚・床の間・台所・便所等に供えていた。母はささやかなおせち料理を作り、そばで見ていた僕たち兄弟に少しばかり味見をさせてくれるのであった。

年明けて、元旦はゆっくりとお雑煮を食べ、三箇日は何もしないで家でのおんびりするのが常であった。母のお雑煮は澄まし汁で、大

根・里芋・白菜等が入っていて、おいしかった。後に、結婚して妻の実家でいただいたお雑煮もお澄ましであったが、餅の形は丸く、具材も大根・里芋のほかに椎茸・こんにゃく等が入っており、初めて土地柄によって違うことを知った。

思えば18年間過した静岡は遠くなってしまった。生まれ育った家はとうの昔になくなり、父も他界

し、親友も逝ってしまって久しいからである（幸い母は兄一家と千葉で元気にしているが…）。過日、高校時代の恩師（大阪府在住）と久しぶりに会った折、いちどきに静岡時代の記憶箱が開き、あれこれと語り合ったのであるが、ふと自分は故郷喪失者かもしれないと思ったことである。今、私の心が渴いている一因はそこにもあるのかもしれない……。

（おおしろ くによし）
（専任講師 真宗学）



美しき富士の山



『行事としきたりの料理』

正月行事から七五三参りまで』
発行：アシェット婦人画報社
著者：千澄子・宮田登・城戸崎愛
写真撮影：高田隆

大谷大学混声合唱団、京都駅ビル『新選組!』イベントに出陣!!

さる10月23日(土)、京都駅ビル室町小路広場にて、NHK大河ドラマ『新選組!』トークショーが行われました。このトークショーは京都市、NHK京都放送局などが主催し、土方歳三役の山本耕史さ



本学混声合唱団

ん、永倉新八役の山口智充さんの二人が「新選組の舞台・『京都』への思い」を語るイベントで、室町小路広場の大階段は3,000人のファンで埋め尽くされました。

このイベントに本学の混声合唱団と同志社大学の合唱団が出場し、それぞれがレパートリーを歌ったあと、『新選組!』のメインテーマがアカペラ合唱で披露されました。日々の研鑽の成果である息の合った合唱に会場からも大き

な拍手をいただきました。ゲスト2人の入場シーンでは学生たちが握手を求め、会場から笑いがもれる1コマもありました。

トークショーはゲスト2人による京都の印象や思い出、他の出演者のものまね入りの撮影秘話などが語られ、また井上源三郎役の小林隆さんもサプライズゲストで参加するなど、会場はおおいにわき、楽しい時間を過ごすことができました。

第48回全日本大学空手道選手権大会に空手道部女子出場

11月23日(火)、日本武道館にて全日本大学空手道選手権大会(団体戦)が開催されました。本学空手道部女子が出場し、文学部仏教学科第1学年、田尻和岐江さんが、右中段逆突き、右上段逆突きの攻撃で2ポイントを獲得し、1回戦にて勝利しました。本学空手道部は、流派は松涛館流、会派は本学のOBを中心に組織した日本空手道連合会大湊会で、年2回の審査(昇段、昇級)があり、現在女子は、岡崎さん、松尾さん、今出さん、地紙さん、田尻さんの5名で

活動しています。今回、勝利した田尻さんは、「試合前に、先輩らと話をし、緊張をほぐしました。試合の2分間は集中していたので、あっという間でした。大きな舞台で勝てたことで、これからも空手をずっと、続けていきたいと思いました」と、力強く語ってくれました。空手道部女子部員の空手を始めたきっかけは、千差万別でした。しかし、みな「押忍!」と礼儀と気合に満ちた声が響く道場で、いきいきと練習に励む様子が印象的でした。「もっと強くな

りたい」と語る空手道部は、現在、男女17名で活動し、年齢、経験、性別、流派など問わず、部員は随時、募集中とのことです。(企画室)



武道館前にて空手道部女子と監督

2004年度大学院特別セミナー開講される

大学院では、世界的に著名な研究者を客員教授に招聘する特別セミナー制度に拠り、今年度はフランス国立高等研究院宗教学部教授、ハルトムート・O・ロータモンド博士をお迎えした。セミナーは9月27日から10月6日まで



緊張の中にも楽しさがあふれた講義

たって開講され、「明治期日本に於ける西洋人のイメージ—内地雑居を通してみる」の講題のもと、熱心な講義とディスカッションが行われた。ロータモンド博士は日本学主任教授として、日本民間の唱導説教の研究に携わってこられた業績をもつが、このたびは、近年手がけておられる、条約改正によって治外法権撤廃が決まり、それによって西洋人が国内を自由通行することが現実のものとして近づいた明治27~32年の言説(内地雑居論)を採り上げ、そのなかの

西洋人をめぐる記述について、比較文化論の立場から取り扱う方法を提示された。今回の講義内容は来春にフランスで著書として出版されるが、受講生には個別の関連課題が与えられており、2年後に行われる後半の講義とともに、受講生による研究報告と併せての展開が期待される。なお、10月8日には同博士による「説教者の創意工夫を探る」と題した公開講演会が開かれ、その後には懇親会も持たれて盛会であった。

(特別セミナー担当者:木場 明志)

湖西キャンパスフェスタ「大きなかぶ」上演



オペレッタ「大きなかぶ」開催

10月23日(土)午前10時30分から、湖西キャンパスセミナーハウスにおいて、湖西キャンパスフェスタが開催されました。湖西キャンパスフェスタは、大学と地域社会との交流を深めていくことを目的に開催され、大津市地域子育て支援センター・風の子保育園や仰木の里市民センター、子育て支援サークル「さくらんぼクラブ」のご協

力のもと、約60家族、140名の方々にご参加いただきました。

今回は、短期大学部幼児教育科の有志学生でつくられた「きららチーム」によるオペレッタ「大きなかぶ」の上演のほか、子供たちと風船あそびや旗あそびをして大変盛り上がりしました。

(教育研究支援課)

留学生文化交流会開催

去る11月6日(土)に、「2004年度第2回留学生文化交流会」を開催しました。当日は、外国人留学生10名を含む29名の学生が参加しました。

午前中に訪れた比叡山では、もみじ祭期間中ということもあり、見頃に色づいた紅葉から、四季の変化を感じとることができました。また、根本中堂では、1200年間輝きつづけている『不滅の法灯』を拝見しました。外国人留学生のひとり「研究室から毎日眺める比叡山に、こんな素晴らしいお寺や自然があることに驚いた。」と

話してくれました。

午後からは、本学湖西キャンパスに会場を移し、京都の伝統工芸である西陣織のきれいな端切れを用いて、おてだまを作りました。中学生や高校生以来、針と糸を持った記憶がないという学生や教員は、針を思いどおりに操ることができず、悪戦苦闘の様子でした。1時間半後、机の上には、箱型や餃子型、ミニチュアサイズ等、様々なおてだまが彩り鮮やかに並びました。

日本の美しい風景を楽しみ、伝統玩具作成に取り組みながら、交

流を深めることができました。

今回の交流会は、2005年2月上旬を予定されています。詳細は、学生支援部学生課までお問い合わせください。(学生課)



おてだま作りの様子

大津市仰木の里学区 まちづくりフェスタ2004参加

11月7日(日)に、本学の湖西キャンパスがある大津市仰木の里地域において「まちづくりフェスタ2004」が開催され、本学幼児教育科の有志学生と児童文化研究会の学生が参加しました。

フェスタのステージイベントでは、幼児教育科音楽教科の有志学



どんぐりシスターズと豊住先生の合唱

生で結成された「どんぐりシスターズ(平本温子さん、藤井可奈さん、保賀智恵さん、村田啓子さん)」による合唱「どんぐりころころ」や豊住征子教授による独唱「ふるさと」など昔なつかしい童謡や唱歌のコンサートが行われました(伴奏:山本真理 実習助手)。なかでも「ロックンロールの汽車ぽっぽ」では、会場が大変盛り上がりしました。

また、プレイゾーンでは、児童文化研究会による人形劇やパネルシアター等が上演され、イベント終了後も子供たちと一緒に「だる



児童文化研究会のパネルシアター「まさんがころんだ」をして楽しみました。

ステージイベントの合間には、フェスタ実行委員会の特別の計らいで、児童文化研究会による本学学園祭のPRもさせていただきました。(教育研究支援課)

紫明小学校1年1組、児童文化研究会による人形劇を観劇

第104回紫明祭、2日目を迎える11月12日(金)午前11時、本学1307教室において、児童文化研究会による人形劇「世界で一つだけの鼻」が上演されました。紫明祭でにぎわうキャンパスの中、紫明小学校1年1組の児童34名が観劇に訪れました。

子どもたちは、自分の鼻が長いことを気にする男の子アキラくんのストーリーに、時折、声をあげて、主人公と共に一喜一憂していました。また、人形劇終了後、豆

つまみ皿うつし、洗面器おてだま投げなどのゲームにチャレンジし、熱心に記録を競い合う姿が見られました。

担任の梅垣智子先生からは「子どもたちには、教室以外の場でも学び感動して欲しい。子どもたちが、生き生きと人形劇を観たりゲームに挑戦したり遊び込む様子を見て、私も嬉しかったです」と感想が寄せられました。

児童文化研究会は、毎年、紫明祭の展示として、人形劇を上演し、

ゲームを行うなど子どもたちとの楽しいふれあいを通じ、理解を深めています。(企画室)



上演後のふれあい

宗教シンポジウム開催



シンポジウムの様子

第104回紫明祭開催中の11月12日(金)13時30分より本学2301教室を会場に「“人間になる”ということ」を総合テーマとして宗教シンポジウムが開催されました。社会評論家の芹沢俊介氏が「生まれたことの意味」と題し、また本学国際文化学科(仏教学)のロバート・F・ローズ教授からは『「本

当の自分になる」ということ』と題して基調講演が行なわれました。当日は、本学教職員、学生、一般来聴者など多数の参加があり、質疑応答の時間では予定の時間をこえ熱心な議論がおこなわれ、「人間になる」ということについて深く考えさせられるシンポジウムとなりました。(学生課)

「第9回大谷大学同窓会ホームカミングデー」開催

同窓会恒例の「大谷大学同窓会ホームカミングデー」が、第104回紫明祭開催期間中の11月13日(土)に開催されました。9回目を数える今回は、名誉教授の先生方をはじめ、退職された先生や専任教員のご出席のもと、全国より同窓生やそのご家族など約150名の参加がありました。

第I部「谷大再発見」では、博綜館第1会議室をメイン会場に、参加者が久しぶりに再会した恩師や旧友となごやかに懇談されたほ

か、新企画の「スタンプラリー」に参加され、様変わりした母校のキャンパスを散策されました。また、学内を散策される際、スタンプラリーの台紙とともに配付された「学園祭バザー利用券」を利用し、バザーに参加しながら在學生との交流も図られました。さらに、第I部の後半には「お楽しみ抽選会」が行われ、当選された参加者に全国の同窓会各支部よりご提供いただいた特産物などが贈られました。

その後、京都ロイヤルホテルに会場を移し、第II部「懇親会」が開催され、和やかな雰囲気の中、盛会裡に終了いたしました。

(校友センター)



第I部「谷大再発見」風景

全国高校生「人間が大好きです！」表現コンテスト表彰式

11月14日(日)に響流館メディアホールにて「全国高校生『人間が大好きです！』表現コンテスト」表彰式が行われました。本学では、今年度より文化庁・京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都新聞社の後援を得て、当コンテストを実施しました。より幅広い層の高校生を対象として映像・ホームページ作品による「マルチメディア甲子園」としての場を提供しようと発展させたのがこのコンテストです。「人とのつながり・お互いを大切と思える心」を考え、そ

の瞬間、イメージをまとめた作品が寄せられました。今年は、近畿・東海圏を中心に27点が出展され、厳正な審査の結果、初代グランプリにはホームページ部門に個人で参加してくれた長島里奈さんが選ばれました。表彰式では、木村学長、審査委員長佐々木令信教授、ゲスト審査員として、映像に造詣の深い谷口キヨコさん、ご自分でもホームページを創作なさっているクリステル・チアリさんの他、共催のKBS京都の役員も来場され講評を頂きました。本学では、

今後もあらゆる方面から未来を担う若人の文化活動を支援して参ります。(企画室)



グランプリ長島さん表彰の様子

大谷学会研究発表例会

10月19日(火)午後1時より、響流館3階のメディアホールを会場として、大谷学会研究発表例会が開



研究発表の一場面

催されました。発表30分、質疑応答10分という限られた時間内の研究発表でしたが、前もって用意された発表資料に基づきつつ、4人の発表者が日頃の研究の一端を発表されました。また、学外からの参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。今回の発表内容は、例年の通り『大谷学報』に掲載される予定です。なお、題目・発表者は次の通りでした。

蠟管音源のデジタル化：

北里蠟管を中心に

山本貴子助教授

正統バラモン思想とは何か

山本和彦助教授

元初の法会について

一石刻史料を手がかりに

桂華淳祥助教授

臨床教育学の「実際」

皇紀夫教授

(大谷学会)

大学報恩講の厳修

11月26日(金)午前10時より講堂において、学外、学内から多数参集のもと、大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要が挙行されました。

宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で、学長の調声により『正信偈』を全員で唱和して報恩講を厳修した後、引き続き歴代講師謝徳法要に移り、『阿弥陀経』の読経のなか、来賓はじめ教職員、学生の代表がそれぞれ焼香を行いました。

法要の後、「中夏日域の仏教」と題して本学名誉教授である藤島

建樹先生の記念講演が行われました。親鸞聖人の書かれた『正信偈』には「中夏日域の高僧」という一文がありますが、これは聖人の導きとなった中国と日本の祖師を讃



藤島建樹名誉教授

えた言葉です。先生は、この言葉に依りながら、仏教伝来の歴史をお話くださいました。その中で、仏教と中国思想との緊張関係や、国家による宗教統制など、仏教が中国において受容される際に起こった様々な出来事を明らかにしてくださいました。幾多の困難な状況を経て果たされた、祖師たちの仕事を讃える聖人の眼差しを思いながら聞かせていただきました。

その後、食堂に会場を移して小豆粥のお齋を全員でいただきました。(総務課)

大学コンソーシアム京都設立10周年記念式典開催

財団法人大学コンソーシアム京都は、その前身である京都・大学センターの設立から10年を迎えました。この間、京都市による「大学のまち・京都21プラン」をもとに、1994年4月に日本初の単位互換事業を運営して以来、財団法人化、キャンパスプラザ京都の完成、そして第2ステージプランの策定と、数々の取り組みを行ってきました。

大学コンソーシアム京都の事業は、単位互換のみならず、インターシッププログラム、京都学生祭典、社会人に大学の授業を開放

したシティーカレッジなど皆さんになじみの深いものも多く開催されています。

さる11月28日には、10周年記念式典が開催され、大学関係者、行政関係者、経済団体など大学コンソーシアム京都設立に関わった方々を交えた記念式典と、祝賀懇親会が開催されました。また記念式典では10周年記念事業の一環として、「大学コンソーシアム京都ロゴマーク」が決定され式典にて表彰されました。このマークは京都地域の芸術系大学を中心に総数156作品の中から選ばれたもので

す。さらに10周年を迎えるにあたり、『設立10周年記念誌』も発行されました。大学コンソーシアム京都のこれまでの10年間の事業推進と、これからの発展にご期待ください。



記念式典の様子

“人権問題を共に考えよう” 全学学習会開催

12月1日(水)午後4時10分より、本学講堂において、2004年度第2回“人権問題を共に考えよう”全学学習会を開催しました。

今回の学習会は、10月18日・20日に本学教室内で差別落書が発見されたことをうけて、第1部として、宮下晴輝大谷大学人権委員会委員長の司会により「差別落書事件についての報告と学習」を行いました。参加者全員に配布された「差別落書事件に学ぶ」と題した資料を読み進めながら、差別落書発見以降の経緯の報告、および今



第1部「差別落書事件の報告と学習会」

回の差別落書事件から学ぶべきことについて提起されました。限られた時間での学習でしたが、会場の参加者からの質問や意見も出され、差別落書事件を契機に今後さらに学習を深めていく必要のあることが確認されました。

引き続き行われた第2部では、ソプラノ歌手の渡辺千賀子さんによる「小さな手のひらコンサート」(伴奏 井草誠さん)が開催されました。渡辺さんは、私たちの身のまわりに存在する差別に対して「私ができること」から取り組もうと、このコンサートを始められました。歌を通して、聴く人と歌うご自身とが人権について想いをめぐらせ、一緒に考えていくことを願って、全国を舞台に公演活動を続けておられます。

コンサートは「竹田の子守歌」から始まり、「君をのせて」「権利」「イムジン河」「原爆を許すまじ」



第2部「小さな手のひらコンサート」
「花」「手紙」、渡辺さんご自身の差別体験から作られた「耳をすまして」、手話を交えてのメッセージ曲「上を向いて歩こう」、「翼をください」の曲目で進められ、美しい歌声とその合間の軽妙なトークを通して、それぞれの歌と人権とのかかわりが紹介されました。私たちの身のまわりにある差別・人権の問題と、それに対して「私ができること」とは何か。コンサートを聴いた私たちに、改めて大切な問いかけをいただきました。
(人権センター)

『紫明近隣昔の写真展』開催！

2004年12月7日～25日の期間、響流館1階ギャラリーにて「紫明近隣昔の写真展」が開催されました。

この写真展は京都市より後援を得て、「大学近辺の環境の変化を振り返る機会を近隣の皆様とともに持ちたい」という大谷大学の願いから、本学が主催したものです。市民の皆様より提供いただいた写真をもとに、北大路商店街や学校

など6ブロックから構成され、合計160点あまりの写真が展示されました。

会場では学生時代を懐かしむ先生たちや学生、近隣の方々がきさくに意見を交換しあい、交流を深める様子が見られました。

来場者の1人は「この写真展を機に、この地域の歴史や文化に関心を持ってもらい、交流が増えることで街が活性化されれば嬉しい

ですね」と語っていました。

(企画室)



近隣の方々と賑わう会場

幼教フェスティバル

幼児教育科のフェスティバルが、12月18日(土)、講堂において催されました。今年は「smile」というテーマを掲げ、ゼミ単位で演目に取り組み形式で行われました。

第1部は、大谷幼稚園児をはじめ、ご案内した近隣の幼稚園・保育園、実習先の園児を対象とした内容となりました。有志による吹奏楽に始まり、ダンスやバルーン

アート、ヒーロー戦隊ショーなどを演じました。

第2部は、午後2時から5時まで。ラインダンスに始まり、学生の創意工夫による劇やダンスなど盛りだくさんな内容で、最後の合唱までおとな子どもも共に楽しめるものとなりました。

忙しい中での発表でしたが、来てくださった方々にも学生の熱い

思いが伝わったのではないかと思います。

(幼児教育科)



演目の1コマ

首都師範大学教員による留学相談会の実施

さる11月25日(木)本学学術交流協定校の首都師範大学(中国・北京)の先生方による留学相談会を開催しました。

当日は、首都師範大学から、孫福生氏(国際文化学院副院長)、宋軍氏(研究生部副主任)、齊軍華氏(文学院院长助理)、葉培貴氏(中国書法文化研究所所長)、李丹明氏(外国語学院教務処処長)の5名の

先生方が出席されました。

相談会では、中国への留学に関心のある本学学生が、孫福生先生をはじめ各先生方から首都師範大学の学生受入れについて説明を受けました。参加した学生からは、要求される中国語レベルや留学生活などについて熱心な質問があり、そのひとつひとつに丁寧に答えていただきました。また、現在、本学で学ぶ首都師範大学からの留学生の繆曉陽さんも参加し、学生の立場から首都師範大学について説明をしていただきました。相談会の最後には孫福生先生から、ひとりでも多くの大谷大学の学生に首都師範大学で学んでほしいとの言葉がありました。

首都師範大学には17の学部と45

の専攻があり、約26,000人の学生がいます。語学留学をはじめ、中国語能力などの条件をみたせばすべての学部で留学することができます。留学生宿舎の国際文化ビルも今年8月に竣工し、現在、各国から長期留学生約530名が学んでいます。皆さんも留学を考えてみてはいかがでしょうか。

(教育研究支援課)



留学相談会風景



木村学長を表敬訪問

中学生「生き方探求・チャレンジ体験」・高校生インターンシップ研修 受け入れ

10月26日(火)~28日(木)、京都市立加茂川中学の生徒が「生き方探求・チャレンジ体験」学習に本学を訪れました。この活動は《生徒自らが、広く社会に出て、体験活動や人とのふれあいを通し、より良い生き方を考え将来を切り拓く力や態度を育成するなど、多くの事柄を学ぶ機会》として実施されているもので、学校付近の多くの事業所が活動に協力し、受け入れているものです。

本学では、2年生の森本葵さんを受け入れ、大学の事務職員の仕事を体験してもらいました。初日は大学図書館にて図書整理や受付をし、2日目は教材準備の手伝いにノートテイクの体験、最終日は



行事取材の写真撮影

企画室・秘書室での事務業務を行いました。

森本さんは、「この3日間、私がいつか大学生になり、大学に通うようになるだけでは出来ないようなことを体験しました。短い期間だったので、何が出来ようになったとはいきませんが、経験として3日間の出来事はとても大きなことでした」と感想を述べていました。

さらに11月25日(木)~11月26日(金)、京都市立伏見工業高等学校の生徒2名が、インターンシップ(就業体験)のため本学を訪れました。インターンシップとは、生徒たちが、企業で一定期間企業活動について体験する制度で、実務体験と教育研究の融合により、就業意識を高め、学習意欲の喚起、柔軟性のある人材育成などを目的として実施され、本学でも2年生、吉村知紗さん、安田琴美さんを受け入れました。初日は、企画室での事務業務、留学相談会の撮影。2日目は、報恩講に参加し、写真撮影の業務にも励んでくれまし



図書館業務に励む森本葵さん

た。「大学の中で、働いておられる先生や職員の方が、私たちにも、挨拶して下さい、社会に出ると挨拶やマナーはとても大切なことだなあと思いました。急に身につくものではないので、心がけていこうと感じました」、「インターネットで資料を探したりする仕事は、コンピュータに対し、もっと興味がもてました。大学の広報に掲載する写真を撮影するのは、緊張しました。デジタルカメラによる撮影は、難しく思いましたが、優しく丁寧に教えて下さったので、楽しく、だんだんきれいに撮れるようになり、嬉しかったです」と2人は感想を述べていました。

(企画室)

災害復興ボランティア報告

① 京都学生共同ボランティアについて

龍谷大学の呼びかけにより、京都市内の6大学の学生約190名が合同で、10月30日、台風23号による被害の大きかった豊岡市と出石町へ復興支援のボランティアに出かけました。3日間という短い募集期間だったにもかかわらず、大谷大学からは19名が参加しました。

学生たちは、各家庭の被災状況の調査をするという仕事を任せられ、小雨の降りしきる中、グルー

プごとに訪問地域を分担し、各家庭を一生懸命訪ね歩きました。すでに床下の泥さらいを始めている家庭もあり、干している畳が乾く頃には作業の人手がほしいことなど、多くの貴重なニーズ情報をボランティアセンターに伝えることができました。今後、これらの情報をもとに現地ボランティアセンターが整理し、それぞれの各家庭の具体的な支援ニーズを決定していきます。責任のある大切な仕事を任せられたということと、他大学の学生たちと協力し合っただけの作業をこなしたということで、学生た

ちにとっては非常に貴重な経験が出来たことと思います。早く復興してほしいという学生たちの気持ちが伝わり、少しでも現地の方々の方力になればと願う次第です。



調査の打ち合わせ(豊岡市)

②舞鶴市、宮津市、大江町の 災害復興ボランティアについて

台風23号の被害のあった舞鶴市、宮津市、大江町の復興支援ボランティア募集の情報を本学で掲示したところ、大勢の学生たちが自発的に参加してくれました。今回は、参加者各自で京都府災害ボランティアセンターのバスの座席を予約し、日帰りでの現地の復興作業に向かう形式をとりましたが、早朝、集会場所の京都駅では、年齢も立場も様々な参加者で混雑している中、本学からの学生たちが

大きなスコップと長靴を持ってそれぞれのバスに乗り込もうとしている姿が印象的にうつりました。

現地での主な作業は、家屋や道路にたまった泥や土の除去作業でした。周囲がほとんど土に埋まってしまう、住むことはもちろん、中に入ることもさえないのではないかと思われる家屋もたくさんあり、パワーショベルやブルドーザーなどの重機が登場する場面も多々ありました。

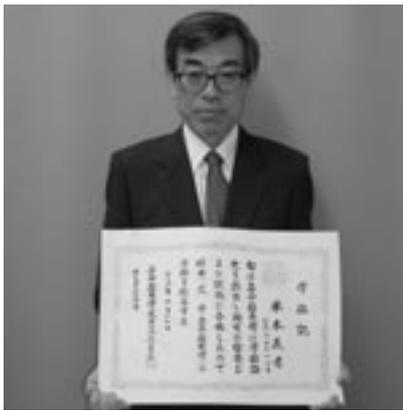
大変な状況下での作業でしたが、後日、学生課の窓口には、参

加した学生たちから、「テレビを見ているだけでは感じられなかった現実を体で受け止めることができた」「機会があればまたぜひ参加したい」などの声がよせられています。(学生課)



復旧作業（宮津市）

米本義孝教授が、博士（文学）の学位を取得



米本 義孝教授

2004年9月、本学の米本義孝教授が、立命館大学から、学位論文「言葉の芸術家 ジェイムズ・ジョイス——『ダブリンの人びと』研究」により、博士（文学）の学位を取得されました。立命館大学英文科としては論文博士第1号です。

人 事

退職

退職・依願退職

[事務系嘱託]

通事 祐子（教育研究支援部）

2004年12月31日付

「学生向け情報提供システム」【就職支援】メニューを使ってみよう！



「学生向け情報提供システム」トップページ

「就職支援」トップページ

【就職支援】とは？

大学に送付されてきた企業からの求人票やセミナー案内を、自宅等のパソコンからも閲覧できる情報システムのことです。大谷大学「学生向け情報提供システム」メニューの1つで、このシステムを使うことで以下のようなことが可能です。

1. 求人検索が可能となりました！

- ①業種・職種・勤務地などを元に検索し、リストアップすることができます。また、進路就職センターが持っている企業データ（本社住所・業種など）を検索することも可能です。
- ②【パーソナル情報登録】で検索項目を個人別に登録すると優先的に最新の情報を引き出すことができます。

2. 求人票が閲覧可能です！

企業から実際に送付された求人票をPDF形式（右下図参照）で閲覧できます。

3. 企業から連絡のあった説明会や、企業への就職実績を確認できます！

求人・企業検索をした場合に進路就職センターで所有している情報・データを閲覧できます。

*詳しくは進路就職センターまでお問い合わせください。



「求人情報検索ページ」

●進路就職センターより

この【就職支援】システムでは、一般の就職サイトと異なり、本学に寄せられた求人票のみを提供しています。自宅からでも情報が引き出せるので、みなさんの就職活動に力強い味方となるでしょう。特にUターン就職を考えている学生には、有効なシステムです。様々な使い方で、これからの就職活動を攻略してください。



「検索結果」

「事業所情報」



「求人票PDF」

お知らせ

「学生向け情報提供システム」にて定期試験情報・卒業（修了）判定・進級判定・卒業論文資格有無の一覧を公開します。また、個人掲示板にも年度末・初めには様々な情報が提供されますので、確認してください。

パスワードの再発行について

利用に関してのパスワード再発行については、至誠館内、教務部・学生課・進路就職センター窓口までお問い合わせください。（システムについてわからない時は、ログイン画面の【ブラウザの設定について】【よくある質問】を参照してください）

紫明祭を終えて

学園祭実行委員会

委員長 伊藤 大信



「風花～永劫なる旅路へ花は舞う～」……このテーマのもと開催された第104回紫明祭は、去る11月14日、無事に幕を閉じました。これも偏に紫明祭の主役である学生のみなさん、教職員の皆様、そして大学内外各方面に亘る方々の熱意や願いの賜物と、あらためて感謝し御礼申し上げるところであります。

「風花」……このように表された“花”とは即ち、紫明祭を成功させたという達成感と、紫明祭によって得た友情、更に言えば人と人との強固なつながりです。

皆様には紫明祭の準備段階から本祭中そして閉幕まで、様々な形で御支援と御尽力を頂きました。

我々実行委員会が対等な形でそれを皆様に還元することができたかは、未だ分からないところでありますが、何れにしても本年度の紫明祭は喜んだり、笑ったり、時には怒りを覚えたり、様々な思いに染まりながらも成功したものと私は確信しています。すべての思いを含んだその“花”は未来に向かって咲き続け、舞い乱れ続けることでしょう。たとえ今その実感がなかったとしても、何年後何十年後に2004年度の第104回紫明祭を回顧したとき、喜怒哀楽すべてが良き思い出として、その“花”は変わらぬ“花”として存在することでしょう。

誰か一人でも欠けたら成立し得

ないのが、この紫明祭だと私は思います。皆様一人ひとりの熱意や願いが一つの色となり形成要素となり、すべての方の力をもって“風”は吹き“花”は咲き、そして舞っていくものと感じるので

す。紫明祭の日々も過ぎ去り、谷大は日常の学び舎へと姿を戻しました。しかし、皆様の心に絶えず舞う“花”は谷大のキャンパスに色形を見せなくとも、美しく咲き乱れていることと私は確信し、その永劫を願うわけでもあります。

来年度、如何なる紫明祭が開催されるのか…。そんな考えを巡らすのは時期尚早だと笑われそうですが、何れにせよこの“花”を維持し、そして更なる“風”を吹かせ、谷大のキャンパスを彩ってほしいと切に念願致します。

あらためまして第104回紫明祭に関わられたすべての皆様に衷心より御礼申し上げます。(第104回大谷大学学園祭実行委員長の重責から解かれ、ホッとしている日に…)





2004年度 秋季大会結果 —団体成績—

クラブ名	日 程	対 戦 校	結 果	会 場
サッカー部 関西学生サッカー連盟秋季リーグ Ⅲ部Bブロック4位	9月19日(日) 10月3日(日) 10月17日(日) 10月24日(日) 10月31日(日) 11月3日(祝) 11月7日(日) 11月20日(土)	神戸大学海事科学部 大阪電気通信大学 芦屋大学 兵庫県立大学姫路 羽衣国際大学 大阪府立大学 滋賀大学経済学部 神戸学院大学	○ 12-0 ○ 13-0 ○ 2-0 ○ 2-1 ○ 3-0 △ 0-0 ● 0-3 ● 2-3	大谷大学湖西キャンパス 〃 芦屋大学 大谷大学湖西キャンパス 滋賀大学経済学部 大谷大学湖西キャンパス 滋賀大学経済学部 大阪府立大学
硬式野球部 京滋大学野球連盟秋季リーグ戦 Ⅰ部4位	9月4日(土) 9月5日(日) 9月11日(土) 9月12日(日) 10月2日(土) 10月3日(日) 10月17日(日) 10月18日(月) 10月23日(土) 10月24日(日) 10月25日(月) 10月27日(水)	佛 教 大 学 〃 花 園 大 学 〃 京 都 教 育 大 学 〃 京 都 学 園 大 学 〃 滋 賀 大 学 〃 〃 京 都 学 園 大 学	● 0-5 ● 1-11 ● 2-3 ● 4-5 ○ 8-1 ○ 4-0 ● 1-2 ○ 3-0 ○ 7-2 ● 2-3 ○ 4-1 ● 2-3	太 陽 が 丘 球 場 〃 〃 京 都 学 園 大 学 太 陽 が 丘 球 場 佛 教 大 学 園 部 キャンパス 京 都 学 園 大 学 太 陽 が 丘 球 場 〃 佛 教 大 学 園 部 キャンパス 太 陽 が 丘 球 場 〃
ソフトテニス部(男子) 関西学生ソフトテニス連盟秋季リーグ戦 Ⅴ部Cクラス優勝 Ⅴ部Bクラス昇格	9月26日(日)	流 通 科 学 大 学 兵 庫 教 育 大 学 奈 良 大 学	○ 4-1 ○ 3-2 ● 2-3	兵 庫 教 育 大 学 〃 〃
ソフトテニス部(女子) 関西学生ソフトテニス連盟秋季リーグ戦 Ⅴ部Dクラス優勝 Ⅴ部Cクラス昇格	9月25日(土)	兵 庫 県 立 大 学 東 学 舎 兵 庫 県 立 大 学 西 学 舎 大 阪 学 院 大 学	○ 3-0 ○ 2-1 ○ 3-0	大 谷 大 学 本 部 キャンパス 〃 〃
バスケットボール部(男子) 関西学生バスケットボール連盟 秋季リーグ戦 Ⅲ部9位	8月28日(土) 8月29日(日) 9月4日(土) 9月5日(日) 9月11日(土) 9月12日(日) 9月25日(土) 9月26日(日) 10月2日(土) 10月3日(日) 10月9日(土) 10月10日(日) 10月16日(土) 10月23日(土) 10月24日(日)	大 阪 芸 術 大 学 京 都 学 園 大 学 四 天 王 寺 国 際 仏 教 大 学 奈 良 大 学 京 都 教 育 大 学 滋 賀 大 学 京 都 精 華 大 学 び わ こ 成 蹊 スポーツ大 学 神 戸 学 院 大 学 桃 山 学 院 大 学 兵 庫 県 立 大 学 姫 路 大 阪 市 立 大 学 追 手 門 学 院 大 学 兵 庫 県 立 大 学 神 戸 京 都 工 芸 織 維 大 学	○ 101-93 ○ 107-58 ○ 88-68 ○ 90-77 ● 63-74 ● 63-64 ○ 82-72 ● 40-103 ● 56-61 ○ 20-0 ● 55-79 ● 68-77 ○ 61-54 ● 58-71 ● 54-60	京 都 精 華 大 学 〃 大 谷 大 学 本 部 キャンパス 〃 京 都 精 華 大 学 〃 〃 〃 兵 庫 県 立 大 学 神 戸 キャンパス 〃 京 都 市 立 体 育 館 〃 京 都 精 華 大 学 大 谷 大 学 本 部 キャンパス 〃
バレーボール部(男子) 関西学生バレーボール連盟 秋季リーグ戦 Ⅳ部優勝 Ⅲ部昇格	9月26日(日) 10月3日(日) 10月10日(日) 10月17日(日) 10月24日(日) 10月31日(日) 11月7日(日)	京 都 教 育 大 学 神 戸 大 学 帝 塚 山 大 学 大 阪 工 業 大 学 四 天 王 寺 国 際 仏 教 大 学 奈 良 教 育 大 学 追 手 門 学 院 大 学	○ 3-2 ○ 3-1 ○ 3-0 ○ 3-1 ● 0-3 ○ 3-1 ○ 3-0	追 手 門 学 院 大 学 滋 賀 大 学 大 谷 大 学 本 部 キャンパス 〃 追 手 門 学 院 大 学 大 谷 大 学 本 部 キャンパス 阪 南 大 学
バレーボール部(女子) 関西学生バレーボール連盟 秋季リーグ戦 Ⅵ部5位	9月19日(日) 9月23日(祝) 9月26日(日) 10月3日(日) 10月10日(日) 10月17日(日) 10月24日(日)	大 阪 芸 術 大 学 京 都 府 立 大 学 姫 路 獨 協 大 学 大 阪 府 立 大 学 花 園 大 学 奈 良 女 子 大 学 神 戸 市 外 国 語 大 学	● 1-3 ● 0-3 ● 0-3 ○ 3-0 ○ 3-1 ○ 3-2 ○ 3-2	神 戸 市 外 国 語 大 学 奈 良 女 子 大 学 〃 〃 神 戸 市 外 国 語 大 学 京 都 府 立 大 学 京 都 精 華 大 学

クラブ名	日程	対戦校	結果	会場
バドミントン部(男子) 関西学生バドミントン連盟 秋季リーグ戦Ⅵ部Cブロック1位	9月26日(日)	神戸外国語大学	○ 3-2	大谷大学本部キャンパス 関西大学 追手門学院大学 東淀川体育館
	10月3日(日)	関西大学Ⅱ部	○ 5-0	
		近畿大学生物理工学部	○ 3-2	
	10月10日(日)	追手門学院大学	○ 3-2	
	10月19日(火)	京都外国語大学	● 0-3	
順位決定戦 Ⅵ部残留				
バドミントン部(女子) 関西学生バドミントン連盟 秋季リーグ戦Ⅳ部Aブロック1位	9月25日(土)	大阪市立大学	○ 3-2	大谷大学本部キャンパス 同志社大学 大谷大学本部キャンパス 東淀川体育館
	10月2日(土)	同志社大学	○ 3-2	
	10月3日(日)	京都府立大学	○ 5-0	
	10月9日(土)	大阪国際大学	○ 5-2	
	10月19日(火)	神戸親和女子大学	○ 5-0	
順位決定戦 Ⅳ部残留		大阪産業大学	● 2-3	
卓球部(男子) 関西学生卓球連盟秋季リーグ戦 Ⅳ部Bリーグ 1位	9月1日(水)	神戸市外国語大学	○ 3-1	伏見港公園総合体育館 京都府立体育館
	9月3日(金)	大阪学院大学	○ 3-1	
	9月4日(土)	大阪工業大学	○ 3-0	
		大阪外国語大学	○ 3-0	
	9月5日(日)	滋賀大学	● 2-3	
優勝 Ⅲ部-Ⅳ部入替戦進出 Ⅲ部-Ⅳ部入替戦 4部残留	9月12日(日)	大阪商業大学	○ 3-2	
		大阪府立大学	● 0-3	大阪経済法科大学
卓球部(女子) 関西学生卓球連盟秋季リーグ戦 Ⅲ部Aリーグ 3位	9月1日(水)	京都府立大学	○ 不戦勝	伏見港公園総合体育館 京都府立体育館
		大阪府立大学	● 2-3	
	9月3日(金)	京都大学	○ 3-0	
		大阪大学	● 0-3	
ラクロス部 関西学生ラクロスリーグ戦 Ⅲ部Dブロック 2位	8月17日(火)	ノートルダム女子大学	○ 18-4	京都工芸繊維大学 大阪外国語大学 舞洲運動広場球技場
	8月31日(火)	梅花女子大学	○ 13-4	
	10月2日(土)	同志社女子大学	● 10-14	
アメリカンフットボール同好会 関西学生アメリカンフットボール連盟 秋季リーグ戦Ⅲ部Eブロック 5位	9月4日(土)	帝塚山大学	● 19-21	万博運動場 京都府立大学 京都工芸繊維大学 万博運動場
	9月18日(土)	京都府立大学	● 7-23	
	10月9日(土)	京都工芸繊維大学	● 3-27	
	10月23日(土)	京都学園大学	● 3-21	

2004年度 秋季大会結果 一 個人成績

□硬式野球部

〈京滋大学野球連盟秋季Ⅰ部リーグ戦〉
於 太陽が丘球場他(9月4日~10月27日)

打撃ベストテン 第4位 辻 井 吉 祥
(文学部 真宗学科 第2学年)

打撃ベストテン 第7位 井 上 陽次郎
(文学部 人文情報学科 第3学年)

打撃ベストテン 第8位 奥 野 正 晴
(文学部 史学科 第3学年)

ベストナイン 外野手 辻 井 吉 祥
(文学部 真宗学科 第2学年)

ベストナイン 外野手 井 上 陽次郎
(文学部 人文情報学科 第3学年)

□跆拳道部

〈関西跆拳道親善大会〉
於 奈良県河合町立体育館(11月14日)

フィン級 優勝 林 俊
(文学部 人文情報学科 第3学年)

□バドミントン部

〈京都学生バドミントン選手権大会〉
於 京都大学(11月21日~28日)

女子シングルスAクラス 優勝 森 永 詩 織
(文学部 国際文化学科 第1学年)

女子ダブルス 優勝 森 永 詩 織
庄 島 舞 子
(文学部 哲学科 第1学年)

□卓球部

〈京都九大戦〉
於 京都工芸繊維大学(12月5日)

女子シングルス 第2位 山 田 貴 子
(文学部 仏教学科 第3学年)

女子シングルス 第3位 野 尻 亜 杏
(短期大学部 仏教科 第2学年)

女子ダブルス 優勝 野 尻 亜 杏
野 尻 亜 矢
(短期大学部 文化学科 第2学年)

年度末・年度始の日程

2004年度末

後期試験

後期試験 1月24日(月)～2月2日(水)

2005年度始め

オリエンテーション開始

4月4日(月)

前期授業開始

4月11日(月)

聴講登録表提出期間

4月14日(木)～18日(月)

教務部

修士論文・卒業論文の口述試問等の日程

2004年度提出の修士論文・卒業論文について、口述試問を次のとおり実施します。日程発表日に教務部①掲示板で時間等をお知らせしますので、各自確認のうえ口述試問を受けてください。

	日程発表日	試問期間
修士論文	1月11日(火)	1月17日(月)～2月2日(水)
卒業論文	1月18日(火)	1月24日(月)～2月2日(水)

後期試験について

今年度後期試験は、1月24日(月)より2月2日(水)までの期間に実施します。試験方法、時間割等詳細は、1月11日(火)に聞思館ピロティ掲示板及び大学ホームページ「情報提供システム」にて発表します。

後期追試験について

病気・不慮の事故等の事由で後期試験を受けられなかった学生について、次のとおり追試験を実施します。(詳細は『履修要項』で確認してください)

1. 受験願受付期間

当該試験実施日から原則として1

週間以内です。

詳しい日程は教務部②掲示板及び大学ホームページ「情報提供システム」で確認してください。

2. 試験日

2月14日(月)・15日(火) (レポート提出締切日は2月14日(月)です。)

真宗大谷派教師修練・補任式について

後期修練 (文学部第4学年・短期大学部第2学年主対象)

第1班 2月3日(木)～2月9日(水)

第2班 2月19日(土)～2月25日(金)

第3班 3月2日(水)～3月8日(火)

第4班 3月11日(金)～3月17日(木)

前期修練

(短期大学部第1学年主対象)

3月23日(水)～3月29日(火)

教師補任式 (全学合同)

3月19日(土)午前中に举行されます。式の時間等詳細は2月28日(月)に教務部③掲示板にてお知らせします。

修了・卒業予定者氏名、並びに諸資格

(教職・保育士・大谷派教師・学芸員) 単位修得可否の発表について

2月28日(月)午前10時に教務部掲示板にて発表します。卒業・修了予定者については大学ホームペー

ジ「情報提供システム」にも掲載します。各自確認してください。

なお、電話等での問い合わせに

は応じられませんのでご了承ください。

文学部の進級者の発表について

3月10日(木)午前10時に教務部③
掲示板及び大学ホームページ「情
報提供システム」にて発表します
ので各自確認してください。

なお、電話等での問い合わせに
は応じられませんのでご了承ください。

保証人への成績報告書送付について

本学では、2005年度より成績報
告書（履修単位通知書）を学生本
人に渡すものとは別に保証人に送
付することを予定しております。

なお、保証人への成績送付を希望
しない場合は、その旨意思表示が
できるようにしたいと考えており
ます。

詳細は、3月中旬に進級結果通
知とともに文書を送付いたします
ので、確認してください。

今年度卒業予定者の証明書の発行について

今年度卒業・修了予定者で、卒
業式当日に卒業証明書・成績証明
書（後期の成績を含むもの）・資
格取得証明書が必要な場合は、次
の期間に申込みをしてください。

2月28日(月)～3月15日(火)

卒業式当日、卒業証書・学位記
等と一緒にお渡しします。

※この期間より後の申込みについ
ては、卒業式の翌日以降の発行に
なります。

年度末の証明書発行について

学割証・在学証明書・成績証明
書は自動発行機で各自発行して
ください。(即日発行、学生証が必要)

ただし、3月25日(金)～3月31日
(木)の期間は学年切替え作業のため
証明書が発行できませんので注意
してください。

科目等履修生・聴講生制度について

本学では、卒業後も開講科目を
受講することのできる「科目等履
修生・聴講生」制度を実施してい
ます。

在学中に資格課程の単位を未修

得のまま卒業した場合等は、この
制度によって必要な科目を履修す
ることができます。

ただし、資格課程を履修希望の
場合、出願資格・受講可能科目等

に条件がありますので、早めに教
務部窓口にて相談してください。

出願書類配布 3月上旬(予定)

出願期間 4月1日(金)～4月7日(木)

学 生 課

学生証の返還及び更新について

3月18日(金)に卒業・修了される学
生諸君は、卒業式当日に式場前で
学生証を返還してください。ただ
し、学生証の有効期限は3月31日ま
までですので、学割などを使用され
る方は後日返還(郵送可)してく
ださい。

在学生については、新年度オリ
エンテーション期間の4月4日(月)
に「2005年度在籍確認シール」を配
付します。受け取り後、直ちに学
生証裏面のシールを張り替えて有
効期限を更新してください。新年
度のシールが貼付されていない学

生証は無効となります。

オリエンテーションは、4月4
日(月)～4月9日(土)の予定です。詳
細決定後、3月上旬に保証人宛に
郵送、ならびに学内に掲示します。

住所(帰省先・下宿住所)・電話番号等の変更は、速やかに届出を

保証人住所(帰省先など)・現
住所(下宿住所)・電話番号(携
帯電話)などに変更が生じた場合

は、速やかに学生課で「学籍事項
登録票(変更)」を受け取り、修正
手続きをしてください。大学から

の重要かつ緊急の連絡ができずト
ラブルの原因となりますので注意
してください。

海外渡航についての注意

春期休暇を控え、学生諸君の中には海外渡航の計画を進めておられる方も多いと思います。アメリカでの同時多発テロ発生以来、戦争や紛争、また、重症急性呼吸器症候群（SARS）等、海外で不測の事態に巻き込まれる危険が増大しています。渡航にあたっては、以下のホームページにて、渡航先の治安状況、衛生状態等を調査し、情報をこまめにチェックした上で慎重に計画を立ててください。利用する旅行会社・航空会社につい

て信頼できる会社であるか、緊急連絡体制は万全か確認してください。また、自分自身を守るため海外旅行傷害保険に必ず加入してください。

渡航については「学生渡航届」の提出が必要です。指導教員の承認を得たうえで必ず学生課に提出してください。

厚生労働省検疫所ホームページ
(海外渡航者のための感染症情報)
<http://www.forth.go.jp/>

外務省海外安全ホームページ
<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/>

万一、日本到着後に発熱、咳、嘔吐などの症状がある場合は、すぐに最寄りの保健所に電話で相談して下さい。また、すみやかに大学へ電話により状況を知らせてください。

本学連絡先 075-411-8120 (保健室)

総務課

卒業証書並びに学位記授与式について

2004年度卒業証書並びに学位記授与式を次のとおり挙行政いたします。

日程：2005年3月18日(金)

		第1部	第2部	第3部	真宗大谷派教師資格取得 コース履修生修了証書授与式
対象専攻・学科		大学院：真宗学・仏教学 哲学・社会学 文学部：真宗学科・仏教学科 哲学科・社会学科	大学院：仏教文化・国際文化 文学部：史学科・文学科 国際文化学科 人文情報学科	短期大学部：仏教科・文化学科 幼児教育科	真宗大谷派教師 資格取得コース履修生
卒業証書・ 学位記授与式	時間	9時30分	11時15分	13時00分	12時15分
	場所	講堂	講堂	講堂	尋源講堂
学位記・証書・ 履修単位通知書等配布	時間	10時30分	12時15分	13時50分	
	場所	1号館(詳細は後日)	1号館(詳細は後日)	2号館(詳細は後日)	

※証書等の配付方法について

講堂での式典終了後、引き続き各学科ごとに教室に分かれ、証書等を各学科の代表の先生より卒業生の皆さんお1人ずつにお渡しいたします。

卒業予定者のみなさんは、講堂での式典終了後、各学科ごとに指定された教室へ速やかに移動してください。

在学生のみなさんは、卒業生の移動、式典等のスムーズな進行にご協力をお願いします。

※お願い

卒業予定者のみなさんへ：講堂での式典終了後、各学科ごとに指定された教室へ速やかに移動してください。式典の進行にご協力ください。

在学生のみなさんへ：講堂での式典終了後、卒業生の方々に証書等の配布をすぐに行いますので卒業生の移動、式典の進行にご協力ください。

校友センター

卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会のご案内

本学では、毎年本学を卒業・修了し、新たに同窓会員となられる方々を対象に、大谷大学・大谷大学短期大学部と大谷大学同窓会の共催で「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」を開催しています。

今年も昨年同様、市内のホテルを会場として実施し、当日は本学教職員も出席の予定です。サークルによるアトラクションも企画しております。

卒業証書・学位記授与式にご出席の父母兄弟の皆さまもお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

■日時 3月18日(金)

*卒業証書・学位記授与式終了後
16:30~18:30

■会場 ウェスティン都ホテル京都
西館4F 瑞穂の間

[交通機関]

地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車
〔乗換〕地下鉄東西線「蹴上」
下車すぐ

■立食パーティー形式

*「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」の案内状は、卒業・修了通知書とともにお届けいたします。



昨年の祝賀会風景

なお、当日は各自会場へご集合ください。

〈お願い〉祝賀会場は例年大変混雑しております。会場内は禁煙とさせていただきます。また、在学生の参加はご遠慮ください。

図書館

年度末の図書館利用について

2005年1月8日(土)からの図書館利用は次の通りです。

都合により変更がある場合は、掲示・HPにてお知らせします。

貸出中の図書は、返却日までに必ず返却してください。

期 間	開 館 状 況
1月8日(土)	<p>■平常開館 (月)~(金) 9:00-19:30 (土) 10:00-17:30 (日・祝日) 休館</p> <p>※1/15(土)は、大学入試センター試験利用入試のため、休館</p>
1月16日(日)	
1月17日(月)	<p>■後期試験対応開館 (月)~(金) 9:00-20:00 (土) 10:00-17:30 (日・祝日) 休館</p>
2月1日(火)	
2月2日(水)	<p>■平常開館 (月)~(金) 9:00-19:30 (土日・祝日) 休館</p> <p>※2/4(土)~7(月)は、一般入試[第1期]のため、休館</p>
2月13日(日)	
2月14日(月)	<p>■短縮開館 (月)~(金) 10:00-17:30 (土日・祝日) 休館</p> <p>※3/7(月)は、一般入試[第2期]のため、休館</p>
3月16日(水)	
3月17日(木)	
4月3日(日)	<p>■館内整理・調査体制 休館</p>
4月4日(月)	<p>■入学式 休館</p>

財 務 課

2005年度 前期学生納付金(学費)の納入について 納入期限は4月20日(水)―締切日厳守―です。

前期学生納付金の納入期限は4月20日(水)〈銀行受付日付有効・納入期日厳守〉です。

納入期限までに納入のない場合は、学則により除籍となりますので注意してください。振込依頼書は、保証人宛に2005年3月31日に大学より一斉発送します。保証人住所、現住所、電話番号など、学

籍事項に変更があった場合は必ず学生課に「学籍事項登録票(変更)」を提出してください。また、振込依頼書が届かない場合、または紛失、破損した場合には再発行しますので、財務課まで申し出てください。

なお、事情により期限内納入が困難と予測される場合には、必ず

納入期限までに、学生課に相談し、学費延納の手続きをしてください。延納締切日は2005年度より下記の通り変更になりますのでご注意ください。

手続きには「学費延納許可願」(所定用紙)および学生納付金負担者の所得証明書(納税証明書・源泉徴収票等)が必要です。

2005年度前期学生納付金一覧		学 費		その他の費用			合 計 額
		授 業 料	施 設 費	大谷学会費	学生会費	教育後援会費	
文 学 部	真宗、仏教、哲、社会、史、文、国際文化学科	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000	516,000
	人文情報学科	397,500	175,000	1,000	2,500	15,000	591,000
短期大学部	仏教科・文化学科	397,500	100,000	1,000	2,500	15,000	516,000
	幼児教育科	397,500	110,000	1,000	2,500	15,000	526,000
大 学 院	修士・博士後期課程	240,000	60,000	1,000		15,000	316,000

学費延納者の納入期日変更について (2005年度より)

学費延納の許可を受けた者の最終納入期日は次のとおりになりました。

() 内は変更前の期日。

(1) 2回分納

前期分	第1回納入	6月15日まで (6月30日)
	第2回納入	7月31日まで (8月25日)
後期分	第1回納入	11月30日まで (11月30日)
	第2回納入	1月31日まで (2月20日)

(2) 期末納入

前期分	7月31日まで (8月25日)
後期分	1月31日まで (2月20日)

学費の減免について (2005年度より)

修業年限を越えて在学する者で、下記にあてはまる場合学費の減免を実施する事になりました。

(大学・短期大学部)

修業年限を越えて在学する者で、卒業に必要な単位が8単位以内の不足者は、授業料の5割を減額する。

(大学院修士課程)

修業年限を越えて在学する者で、修了に必要な単位が2単位以内の不足者、又は修士論文のみ不足者は、授業料の5割を減額する。

(大学院博士後期課程)

修業年限を越えて在学する者で、学位論文のみ不足者は、授業料の5割を減額する。

休学者の在籍料について (2005年度より)

休学者の在籍料を現行の施設費相当額から、全学同額の下記金額に変更いたしました。

大学・短期大学部・大学院 年額 120,000円

進路就職センター

進路就職センターは、進学や就職など、進路全般についての相談窓口です。学年を問わず気軽にご相談ください。

就職支援企画

―履歴書用写真撮影(有料)―

今後必要となる履歴書用写真を、学内でまとめて購入できます。写真はシール形式になっていますので、非常に便利です。

日程：1月19日(水)・20日(木)・21日(金)※10：00～17：00
 場所：至誠館2F会議室
 費用：1,800円～2,800円(税込) (CD-R希望の場合は300円追加)
 ※詳細につきましては、進路就職センター掲示板で確認してください。

ー就職活動直前ガイダンスー

後期試験が終了すると、いよいよ各企業の本格的な採用活動がスタートします。就職活動にあたっての注意事項・応募書類・その他重要な事項について説明します。

日程：2月2日(水)
 ※詳細につきましては、進路就職センター掲示板で確認してください。

ー学内企業セミナーー

文学部第3学年・短期大学部第1学年対象

学内で開催される合同企業セミナーです。例年約100社程度の参加があり(3日間合計)、毎年このセミナーから多くの内定者をえています。実践的な就職活動の始まりともいえるこの学内企業セミナーで、まずは就職活動がどのようなものかを体験してください。

日程：2月9日(水)・17日(木)・3月3日(木)
 場所：博綜館5F第1・第2会議室
 ※詳細につきましては、進路就職センター掲示板で確認してください。

ー面接実践講座(1日完結型)ー

文学部第3学年・短期大学部第1学年対象

これから始まる就職活動において、面接はほとんどの企業で実施されます。それほど重要視される面接の対策講座です。ぜひ受講し、面接への不安感を取り去ってください。

日 程 (いずれも13：00～17：30)		会 場
2月	10日(木)・14日(月)	J103教室
	15日(火)・16日(水)	1205教室
	18日(金)・23日(水)	

受付：1月19日(水)～2月2日(水)17：00まで
 費用：無料(いずれか1日を選択の上、進路就職センター窓口に応じ込むこと)
 ※受講人数は1日60人です(定員充足次第締切)。

第1学年からのサービス紹介 ～キャリア形成を考える～

～資格取得を目指そう～

◎マイクロソフトオフィススペシャリスト
 (Word・Excel) 対策講習

第5回・第6回

仕事をする上でもっとも使用されているWord・Excelについての講習です。また別途申込にてマイクロソフトオフィススペシャリスト検定試験も受験していただけます。

マイクロソフトオフィススペシャリスト対策講習

●第5回

日 程		時 間	定 員	受 講 料	テ キ ス ト	受 付 期 間
2月	9日・10日・14日～18日	9：30～12：40	30	5,000	4,000円 学内書店 にて購入	1月11日(火) ～21日(金) 17：00まで
	21日～25日					

●第6回

日 程		時 間	定 員	受 講 料	テ キ ス ト	受 付 期 間
2月	9日・10日・14日～18日	13：30～16：40	30	5,000	4,000円 学内書店 にて購入	1月11日(火) ～21日(金) 17：00まで
	21日～25日					

～難関試験に早期から備えよう～

◎公務員受験特別講習 演習講座

公務員希望者を対象に、採用試験に対しての受験対策講習を開講します。

今回の講習は、地方中級レベルから大卒警察官・大卒消防職員レベルに向けての一般知識・一般知能分野(数的推理・判断推理・資料解釈)対策となります。受講は学年を問いません。

公務員受験特別講習 演習講座

日 程		時 間	定 員	受 講 料	テ キ ス ト	受 付 期 間
2月	14日～18日	10：30～16：00	50	4,000	2,600円 当日会場 にて販売	1月11日(火) ～21日(金) 17：00まで

◎教員受験特別講習<教職教養科目> 第2回

教員希望者を対象に、採用試験に対しての対策講習を開講します。

今回は、最新の出題を解きながら第1回の学習を復習、深化、統合し、併せて出題傾向をさぐります。受講は学年を問いません。

教員受験特別講習 第2回 教職教養科目対策

日 程		時 間	定 員	受 講 料	テ キ ス ト	受 付 期 間
2月	9日・10日・14日 16日・18日・21日 23日・25日・28日	14：30～16：00	50	4,000	500円	1月17日(月) ～28日(金) 17：00まで
	3月 2日・8日・9日 11日・14日・16日 23日・25日・28日 29日・31日					

●日程、時間、受講料等については予定です。実施要項や掲示等に注意してください。

2005年度カリキュラム改革の目指すもの

— 大学教育へのスムーズな移行と体系的な学習を支援 —

学監・文学部長 宮 下 晴 輝

はじめに

1991年に実施された大学設置基準の大綱化をうけて、翌1992年度に行われた大谷大学のカリキュラム改革から、既に12年が経過しました。この改革で行われた一般教育と専門教育の区分廃止、必修科目数の抑制、学科指定科目の学年指定の緩和などは完全に定着し、学生の求める授業の選択がかなりの自由度をもって行える体制が続いてきました。

しかしこの間、一方では初・中等教育制度のめまぐるしい改革が行われ、他方では入学してくる学生の気質が変化したことなどにより、現在のカリキュラムでは対応できない状況が生まれてきました。そこで、来年度より再度カリキュラムを改革して、21世紀にふさわしい新しい大谷大学の教育体制を確立していくこととしました。

以下、その要点を説明していきます。

【文 学 部】 大学導入科目と

学科導入科目の新設

近年、高等学校までの教育と大学における教育との違いに困惑し、スムーズに大学教育に入れないう学生が増えています。このため、

いくつかの大学では、リメディアル教育（再教育）や転換教育などを導入して、教育効果を高める努力がなされています。

大谷大学でも、こうした状況に対応するため、今回、「大学導入科目（学びの発見）」と「学科導入科目（専門の技法）」を新設して、高校教育から大学教育への転換と、専門的教育へのスムーズな導入を図ることとしました。「大学導入科目」は第1学年の前期に、1週2時間続けての授業時間を取り、20～30人の少人数クラスでグループワークを行い、自由な発想を広げ、またそれを収束させる試みや、さまざまな情報の収集整理、文章表現を豊かにするなどの訓練を行います。また、学科導入科目は第1学年の後期に、1週2時間続けて時間を取り、それぞれの所属学科の専門教育に適應できる能力を高めるための基礎教育がなされます。

科目名称の具体化

共通・充当の廃止

これまでの学科指定科目は、講義科目は「○×学講義5」、演習科目は「○×学演習3」といった共通の名称を持ち、後に付した数字によって区別してきたため、講義概要といちいち対照しなければ授業内容がわかりませんでした。

今回、ほとんどの科目について、その授業内容が科目名称として理解しやすいように改めました。これによって、授業内容を誤って登録することを防止できるようになります。また、そのことによって共通・充当という曖昧な表現を廃止することができ、資格取得に必要な科目が明確化されることになりました。

なお、多くの科目が具体的な名称になったことなどから、履修は一度だけしか認められなくなりません。しかし、毎年内容を変えて行われる講義・演習は、それぞれ「○×学特殊講義」「○×学特殊演習」と名付けて、複数回の履修を認めることとしています。

セット科目の新設と 自己選択ゾーン

1992年に行われたカリキュラム改革の1つに自由科目の設置があり、卒業単位124単位のうち42単位という広い枠が与えられていました。これによって学生は自己の関心や興味にしたがい、所属する学科科目にこだわらず授業を受ける幅を大きくとることができました。しかし、そのことが逆に、学生に何を履修すべきかわからないという戸惑いを与え、特殊な教科に偏った履修を行う学生が増えるなどの弊害を生みだしてしまいま

した。

そこで今回は、自由科目群を整理統合して15種のセット科目を新設し（「留学・単位互換」を含めて16）、学生はそのうちから2セットを登録し、各セットから最低10単位を取得するように改革しました。15種のセットには、外国語の修得に特化したもの、各種の文化を学ぶもの、人間の体や心を考えるもの、社会のさまざまなあり方を考えるもの、などを準備しています。このことにより、学生は登録する科目に迷うことなく、体系的に授業を選択することが可能となります。

また、自己選択ゾーン20単位（人文情報学科は16単位）を設置し、学生の関心や興味に応じて、他学科の科目やセット科目から自由に履修できるよう配慮しています。

共通科目の変更

従来の共通科目は、総合科目（人間学Ⅰ・人間学Ⅱ）、第1・第2外国語、情報リテラシーの3種で、各学科に共通して課せられた科目です。今回の改革では、第1・第2外国語の最低履修単位数を各6単位から各4単位として第1学年配当とし、情報リテラシーを廃止しました。

外国語の単位は減少しますが、外国語の修得を目指す学生には、セット科目の中に外国語の修得に特化したセットを設置していますし、外国語の修得に余りこだわらない学生は、専門的科目の単位を少しでも多くあてることができます。これによって外国語教育についても、学生それぞれの希望に応じたメリハリのある教育を行うことができるようになります。

また、情報リテラシーの廃止については、2006年度入学生からは高等学校において情報科目が必修

となりましたので、基本的な情報機器の取り扱いには習熟しているものと考えられるからです。なお、情報機器の取り扱いを深めたい学生には「人文学と情報」というセットが準備されています。

【短期大学部】

短期大学部は2年間という限られた時間のなかで教育を行わなければならないことから、体系化されたカリキュラムが既に実施されています。このため、今回の改革ではほとんど変更されていません。ただ、文学部と同じように「大学導入科目（学びの発見）」を新設し、高等学校教育からの転換教育を行うことになっています。

なお文化学科は、今回のカリキュラム改革に合わせて、従来の3コース制から文化・情報の2コース制とし、現代人に期待される教養を身につけることを目指したカリキュラムとなります。

【大 学 院】 セメスター制の導入と 所要単位数の変更

文学部とあわせて大学院でもセメスター制を導入いたします。これにより、大学院学生の海外への留学や外国人留学生の受入等の国際交流が、より活発になることが期待されます。

また、大学院学生の自発的研究学習活動を確保・促進するために従来の所要単位数を、修士課程では50ないし52単位から34単位へ、博士後期課程では30ないし32単位から18単位へと大幅に減らします。具体的には、修士課程では基礎科目6単位（「仏教の思想」2単位、「基礎文献研究」4単位）、主要科目8単位、関連科目20単位となり、博士後期課程では基礎科目2単位（「仏教の思想」）、主要

科目12単位、関連科目4単位となります。これにより今まで以上に、自らの研究に専念し、自主的な読書会・研究会に積極的に参加し、指導教員からのアドバイスを頻繁に受け、ときには後輩学生の学習を支援することも可能になります。

基礎資格の廃止と

「仏教の思想」新設

本学大学院で学ぶことの意味を考えてもらうために設けられていた「基礎資格」科目を廃止し、同時にその趣旨をむしろより一層広い視野から実現する目的で、新たに「仏教の思想」を開講します。また、これまで必修であった外国文化文献研究4単位は関連科目とします。但し、課程博士論文提出のためには「外国語を2カ国語習得」という要件があるので、課程博士の学位取得希望者は修士課程から履修しておくことを勧めます。

カリキュラムの整備

社会学・国際文化専攻に設置されていた「共通科目群」を廃止し、他専攻と同様に基礎科目、主要科目、関連科目という三本建てにします。基礎科目で専門的研究のための基礎力をつけ、主要科目で関心領域の研究を深め、関連科目で幅広い視点を身につけるといふ、それぞれの科目の目標が明確になることで、研究と学習をより緊密に結びつけることができるはずで

適 用

なお、今回のカリキュラムの改革は、2005年度新入生・2007年度第3学年編入生から適用されるもので、2004年度以前入学生・2006年度以前編入生には、従来のカリキュラムが適用されます。

2005年度学費について

本学では、学生納付金のうち文学部および短期大学の授業料については、毎年一定の算式で改訂するスライド方式を採用しています。

2005年度の授業料についても今年度同様、スライド率を0.00%とし、2004年度の授業料の額(795,000円)のまま据置といたします。なお、大学院の授業料も2004年度の額(480,000円)のまま変更致しません。

本学では、大学に入学したすぐ後に新生の1泊研修会を実施し、円滑な大学生活がスタートできるようにサポートしています。その後も、指導教員によるクラス制でより密着した学生指導が行われています。大学に在学する期間、充実した大学生活を送ることができるよう、さらにキャンパス環境を整備していきます。

教育研究の面では、学生の皆さんが、レポートの作成やゼミなどの発表の準備等で、総合研究室や図書館で自由に学習できる環境を整えています。図書館と内部階段

でつながった総合研究室では、各学科・専攻ごとに助手が常駐しており、学習上の質問や授業の課題などの相談にも親身になって対応しています。

また、本学では海外文化についての講義や研修、海外留学制度による現地研修も積極的に行い、さまざまな文化との交流を通して、語学力とともに幅広い知識を習得できるような機会を設けています。大韓民国や中国、アメリカ等の諸大学と学術交流協定を結び、夏休みや春休みに短期語学研修を実施しています。各地域の生活環境や自然などを体験し、語学力とともに国際社会をさまざまな視点から見つめる力を養い、全世界で活躍する人材の育成をめざしています。

一方、卒業後の進路については、就職ガイダンス等を開催し、早期から卒業後の進路への取り組みを促しています。また、公務員受験特別講習や資格試験対策講習などの各種講習の開催や、就職活動を終えた卒業年次生が、就職活動を

始める学生に直接アドバイスする就職活動報告会を実施し、就職へのサポート体制を充実させています。

私立大学を取巻く環境は、国立大学の独立行政法人化による競争の激化や国庫補助金の伸び悩みや大学就学人口の減少など、非常に厳しいものがあります。日本経済におきましても、回復傾向にあるとはいわれるものの、依然低迷状態が続いています。

そのような中で、仏教精神に則って「自己とは何ぞや」と問い続け、一人ひとりが「生きる力」を身につけることを教育目標に掲げる本学が、今こそ、日本のみならず世界にその個性輝く大学として存立するため、教育研究の一層の充実をはかり、将来に向かって持続するために、安定的かつ強固な財務基盤の確立をめざして経営努力を続けてまいります。ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(大谷大学・大谷短期大学部)

(A) 文学部

(年額)

学費	学科	真宗・仏教・哲学・社会・史学・文学・国際文化学科	人文情報学科
授業料		795,000	795,000
施設費		200,000	350,000
合計		995,000	1,145,000

(2005年度入学者は入学金200,000円必要)

(B) 短期大学部

(年額)

学費	学科	仏教科・文化学科	幼児教育科
授業料		795,000	795,000
施設費		200,000	220,000
合計		995,000	1,015,000

(2005年度入学者は入学金200,000円必要)

(C) 大学院文学研究科

(年額)

学費	課程	修士課程	博士後期課程
授業料		480,000	480,000
施設費		120,000	120,000
合計		600,000	600,000

(2005年度入学者は入学金200,000円必要)

2005年度公募制推薦入試結果

学部	方式	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格者得点	
								最高点	最低点
文学部	方式	真宗学科	10	55 (10)	55 (10)	15 (4)	3.7	126	104
		仏教学科	10	38 (3)	38 (3)	19 (2)	2.0	125	95
		哲学科	10	41 (6)	39 (4)	18 (1)	2.2	122	96
		社会学科	20	101 (44)	97 (42)	37 (20)	2.6	136	100
		史学科	10	73 (35)	71 (36)	16 (12)	4.4	130	111
		文学科	10	58 (29)	57 (28)	16 (8)	3.6	127	108
		国際文化学科	10	41 (28)	41 (28)	19 (16)	2.2	133	101
		人文情報学科	10	29 (8)	29 (8)	14 (6)	2.1	123	96
	合 計	90	436 (163)	427 (159)	154 (69)	-	-	-	
	方式	真宗学科	10	47 (7)	47 (7)	13 (3)	3.6	131	109
		仏教学科	10	38 (7)	38 (7)	14 (2)	2.7	125	103
		哲学科	10	54 (16)	53 (15)	20 (7)	2.7	134	105
		社会学科	20	239 (100)	235 (99)	36 (20)	6.5	126	111
		史学科	10	139 (52)	136 (52)	18 (6)	7.6	131	114
		文学科	10	115 (63)	114 (62)	19 (11)	6.0	133	113
		国際文化学科	10	109 (64)	109 (64)	20 (15)	5.5	130	111
人文情報学科		10	37 (13)	37 (13)	18 (10)	2.1	118	101	
合 計	90	778 (322)	769 (319)	158 (74)	-	-	-		
文学部合計			180	1,214 (485)	1,196 (478)	312 (143)	-	-	-
短期大学部	A方式	仏教科	15	20 (4)	20 (4)	18 (4)	1.1	114	83
		文化学科	25	33 (29)	32 (28)	29 (26)	1.1	118	84
		幼児教育科	10	55 (44)	55 (44)	12 (9)	4.6	119	108
		合 計	50	108 (77)	107 (76)	59 (39)	-	-	-
	B方式	仏教科	10	35 (8)	34 (7)	33 (7)	1.0	119	66
		文化学科	25	64 (59)	63 (59)	50 (46)	1.3	127	92
		幼児教育科	10	130 (107)	128 (105)	13 (12)	9.8	132	120
		合 計	45	229 (174)	225 (171)	96 (65)	-	-	-
短期大学部合計			95	337 (251)	332 (247)	155 (104)	-	-	-
総 計			275	1,551 (736)	1,528 (725)	467 (247)	-	-	-

注：① () 内数字は女子内数
②全て150点満点

2005年度大学院秋季試験（修士課程）結果

課程	専 攻	募集人員	区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
修士課程	真宗学	定員 (20) の 50%程度	学内	20 (4)	20 (4)	15 (2)	1.4
			学外	5 (0)	5 (0)	3 (0)	
	仏教学	定員 (20) の 50%程度	学内	4 (0)	4 (0)	3 (0)	1.3
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	哲学	定員 (10) の 50%程度	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	社会学	定員 (10) の 50%程度	学内	1 (0)	1 (0)	0 (0)	—
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	仏教文化	定員 (20) の 50%程度	学内	4 (1)	4 (1)	3 (1)	1.2
			学外	3 (0)	3 (0)	3 (0)	
	国際文化	定員 (10) の 50%程度	学内	2 (1)	2 (1)	0 (0)	3.0
			学外	1 (1)	1 (1)	1 (1)	
合 計		定員 (90) の 50%程度	学内	31 (6)	31 (6)	21 (3)	
			学外	9 (1)	9 (1)	7 (1)	
			計	40 (7)	40 (7)	28 (4)	

注：① () 内数字は女子内数
②倍率は、受験者数を合格者数で除したものの。

《他大学合格者の出身大学名》

◆各1名 大阪大学・愛知学院大学・種智院大学
同志社大学・同朋大学・明治大学・早稲田大学

学問のしおり

ぼくはチベット仏教の研究、特にその論理的・哲学的側面の研究を専門にしている。仏教にもいろいろあるし、もちろん哲学にもいろいろな地域や分野があるが、どうしてチベットなのだろうか。

こういうことを専門にする理由については、たいていの場合、様々な偶然の出来事が重なって、気付いたときにはこうなっていた、ということになるだろう。でも、チベットを研究していると、こうなったのは前世の因縁があったのではないかと思うようになる。たとえばぼくの前世は鳥で（オカメインコだったかもしれない）、チベットの、僧院の庭で、いつも仏教の論理学を講義している中国に追われてインドに亡命する前の高僧の話を窓越しに聞いていたのかもしれない。そして来世はきっと人間に生まれて、この精緻で広大なチベット仏教の哲学を学びたいと祈願していたのかもしれない。

確かに偶然なのだろうけれど、ぼくとチベットとの関わりは、何か特別な力によっていろいろなものが自然に一つの焦点に集められていったようなところがある。それが好きだからやっている、というのではなく、気付いてみたら、チベット

に関係するところに自然と動かされて行ったという感じだ。

ぼくは大学では哲学、大学院ではインド仏教論理学を研究していた。もちろん、チベット語は勉強していたが、チベット仏教を研究しようと思っていたわけではない。それが大学院博士課程の2年のときに、東洋文庫のチベット研究室というところにたまたま研究員のポストができた。無人研究室だったチベット研究室を、このままじゃだめだという当時の東洋文庫長榎一雄先生（東洋史の大先生である。）の号令で突然ポストが用意され、そこでチベットの文献に囲まれて、停滞していた研究室の研究事業を立て直すことになったのである。そのときの榎先生の、チベットに掛ける熱い思いがなかったら、そんなポストは用意されなかっただろう。

東洋文庫というのは、豊富なチベット文献を所蔵していることで世界的にも有名な研究所である。世界中のどこに行ってもチベット学者で“Toyo Bunko”を知らない人はいなかった。

東洋文庫とチベットは深い絆で結ばれていた。1902年、日本人で始めてチベットの首都ラサに潜入した河口慧海師が持ち帰ったチベット語仏典



「いつのまにか チベットのあるところに」

福田 洋一

は東洋文庫に収められた。河口師は晩年、東洋文庫に部屋を持ち、チベット語辞典の編纂に精魂を傾けたが、その事業が後のチベット研究室の基礎になった。また亡命チベット人を支援するため、1960年に世界各国の研究機関がチベット人学僧を研究員に採用するプロジェクトが始まったが、日本では東洋文庫がその受け入れ機関になった。その時の中心になったのは、これも河口師に次いでチベットに入り、10年間もチベットの僧院でチベット僧と同じ勉強と修行をしてきた多田等観師だった。以来、東洋文庫では常に何人かのチベット人を研究員に迎え、共同研究をしてきた。

ぼくの妻との最初の出会ひも、実は東洋文庫で催されたチベット人研究員の帰国パーティでの席上だった（ということは後になって分かったことで、その当時はお互いを認識していなかった）。その後、早稲田大学の大学院生でチベット史を研究していた彼女は、東洋文庫でアルバイトをするようになり、そのうちに一緒に共同研究をするようになった。東洋文庫でチベット研究室の研究事業をし、家に帰ってもチベット研究と一緒にやっている。

日本チベット学会という世界で最も古いチベッ

ト学会がある。その事務局が長いこと東洋文庫のチベット研究室に置かれ、学会長は当時の東洋文庫理事長北村甫先生が務めていた。その北村先生とぼくは二人三脚でチベット研究室や東洋文庫自体の事業を進めてきた。その北村先生が高齢のため東洋文庫の理事長を辞め、学会長も当時の大谷大学の学長小川一乗先生にお譲りし、ついでに事務局もこちらの真宗総合研究所に移した。大谷大学も東洋文庫に負けず劣らずチベットとの深い絆を持った大学であった（そのことは別の機会にこの『広報』で書いたことがある）。一方、新しい東洋文庫理事長の下でチベット研究事業は継続されないことになった。学会事務局を大谷大学に移した1年前には夢にも思わなかったのが、1年後にぼくも後を追いかけるように大谷大学に異動することになった。

こうして全ては偶然の重なりであるのだが、ぼくは何も求めることがなかったのに、いつのまにかチベットのあるところに動かされてきた。やはり前世の祈願が成就したということなのだろう。

谷大エリア散策

第18回 堀口大学堂さん（写真店）



ご主人・堀口孝(右)さんと正晃(左)さん

入学までもない学生証の顔写真、そして就職活動用の証明写真と、谷大生が何かとお世話になることの多い、北門から西側すぐの写真店、堀口大学堂のご主人・堀口孝さんにお話を伺いました。

—お店はいつ頃からですか

開店したのは父の代で昭和6年の終わり頃です。最初はここから2軒東、アメリカヤ楽器店さんの東隣の場所でした。今は大学の北門になっていますね。

—大学堂という名前の由来は？

開店当初は「堀口写真機店」という店名でしたが、せっかく大学の近くにきたのだから「大学堂」に変えたのだと父が話していました。

そういえば「堀口大学」という著名な文学者がおられましたね。フランス文学、特に詩の翻訳で有名な方ですが、昔、京都に来られたとき、たまたまこの店の前を通りかかられたらしいのです。それで後日手紙を頂いたことがありました。自分と同じ名前の店を見つけて驚いたというようなことが書



堀口大学堂の外観

かれていたと思います。まだ私が20代の頃ですから、40年くらい前の出来事ですけれどもね。

—大谷大学の関係ではどんな写真を撮っておられますか

学生証の写真、証明写真、卒業式には袴姿の写真もたくさん撮らせていただいています。クラブごとに学園祭などの写真の現像などもよく持って来ていただきます。皆さんの思い出を残すことに関われるのは嬉しいです。

クラブボックスが響流館のあたりの場所にあった頃はよく来ていただきましたが、今の場所に移ってからは皆さん少し足が遠のかれてしまい、残念ですね。

—扱われる写真によって、大学の変化をお感じになりますか

昔は大谷大学は男子の方がほとんどでしたが、女子学生が増えたのが大きな変化ですね。女性が多くなると賑やかで活気がありますね。今の学生さんは皆とてもおしゃれになられたと思います。

変化といえば、携帯電話が普及して、使い捨てカメラがさっぱり売れなくなったんですよ。少し前まで、特に女性の方は使い捨てカメラを使われることが多かったのですが、デジタル化もともかく、カメラ付き携帯の影響は大きいです。写真業界全体にとって、今はまるで明治維新のようだと言われているんですよ。

—デジカメの普及による変化は？

それはいろいろありますよ。現在、扱う写真はフィルムとデジタルがほぼ半々くらいです。証明写真もデジタルになり、フロッピーでお渡しするようになりました。デジタルの画質が向上して、仕上がりは見分けがつかないくらいです。3か月間隔で新製品が出ますし、画素数も増えて日進月歩です。本当は、焦点や絞りの写真

の基礎を従来のカメラでもっと勉強していただきたいな、とは思っているんですが。若い人でもわざわざ古い一眼レフなどを楽しんでいる方もおられますけどね。

—大谷大学との関わりについて

うちにとってはお隣さんですから、とても身近な存在です。子供の頃は家の裏側あたりに弓道部の練習場があり、的にする俵などでしょっちゅう遊んでいました。グラウンドで町内会の運動会があったり、野球もしました。北門ができてより近くになりましたし。商売の面でも、本当に大谷大学あってのうちだと思っています。



たくさんカメラが並ぶ店内

—大学と地域の交流について

大学では一般向けの公開講座などいろいろ企画しておられますね。ぜひ一度行ってお話を聞いてみたいと思っています。できればグラウンド等も昔のように、地域の人をもっと利用できるように計らっていただければ、なおありがたいですね。

響流館での紫明地区の昔の写真展には、うちにあった写真も何点か出させてもらいました。こうした企画は地域のために工夫していただいていることですね。

商店街には若い人向けの店が少ないですね。もっと若者向けの店が増えたら、学生さんに利用していただけて、交流も増えるのではないかなと思っています。

—ありがとうございました

写真でふりかえる 大谷大学今昔



鈴木大拙博士



旧鈴木大拙邸



「紫明近隣 昔の写真展」開催

佐々木 令 信

二〇〇四年十二月七日から二十五日にかけて、大谷大学響流館一階ギャラリーで「紫明近隣 昔の写真展」が開かれた。昨年、昔の大谷大学の遠景が写っている一枚の古い写真が大学に寄せられたのをきっかけに、地元に残る古い写真を収集し、地域の方々に呼びかけて写真を募集したところ、約二百五十点が集まり、その中から約百六十点が出展された。

写真展は、「北大路商店街のたたずまい」「地域の生活・風景」「市電のある街並み」「戦争の思い出」「幼稚園・学校の様子」「大谷大学の情景」という六テーマで構成され、モノクロ写真のなかに大正以来の紫明地域の生活、風俗、環境の歴史がぎっしりとつまっている。市電とともに開けていく商店街の様子や、賀茂川沿いの景観の移り変わり、ラジオ体操や祭の情景、第二次世界大戦中の出征兵士や町の戦時色への変貌などが、写真独特の説得力をもって伝わってくる。そして、小学校から大学までの学びの場が、その紫明近隣とともにあつたことが実感できる。

紫明学区に住み大谷大学で教鞭をとった教授に、鈴木大拙・ビアトリリス教授、立花勝教授、名畑心順・崇教授、三品彰英教授がいる。彼らは、写真の様々な風景の中で実際に生き、今も人々の記憶に、その足跡を残している。

小山東大野町に住した鈴木大拙教授は、世界的に有名な仏教学者であり、禅の思想に深い造詣を持ち、また真宗の教義にも理解を深め、『日本の霊性』『禅思想史研究』『浄土系思想論』などをはじめ、膨大な著作を残した。住居は今も昔のまま残っている。また、京都大学哲学科教授西田幾多郎とも親交をもち、思想界に大きな影響を与えた。文学博士、昭和二十四年文化勲章受賞。大谷大学には、大正一〇年（一九二一）、ビアトリリス婦人と揃って招聘され、大拙教授は英語・仏教学を担当し、ビアトリリス夫人は予科教授として英語を担当した。ビアトリリス夫人は昭和十四年（一九三九）病没されるが、大拙教授は引き続き教壇に立ち続けた。昭和二十四年六月渡米、昭和二十九年九月帰国後は主として鎌倉東慶寺に住するが、昭和三十五年（九十歳）まで、大谷大学教授の任にあり、その後名誉教授。昭和四十一年七月、逝去。九十六歳。

写真に写る人や建物のひとつひとつには、温かみが隠れている。また時代を生きた人からの言葉を通じてしか理解できない部分が写真にはあり、古き地域の姿を知る地元の人々の交流は、本当に貴重なものである。めまぐるしく変貌をとげる今昔、未来を考えるうえでも、貴重な礎となるであろう写真展になった。

（つぎ） れいしん 教授 日本仏教史

学生相談室から



自分だけのことは
いくつもの相談機関で来談した人の話を聴くなかで、おもしろいなと感じることがある。それは相談に来た人が自分の悩みを話す時に使うことばである。自分の今の困っている状況を話すにも、「しんどい、しんどい」を繰り返す人もいれば、「鬱です」と専門用語で説明する人、「スドーンと落ちたような感じ」と言う人、ただ辛そうな表情をしながら苦悶している人といった具合で、様々である。その中でその人ならではの個性的なことばに出会う時がある。おそらくその人は自分の悩みを考え、どう言えば適当か、どう言えばわかってもらえるか、そしてどう言えば自分でも今の状況とぴったり来るかということを探しぬいて出てきたことばなのだろうなあと考えてしまうのである。確かに、芸術の表現をとってみても、リングや花瓶が置いてある同じ風景を見ても描き方は様々である。悩みを表現することばも人それぞれ

自分だけのことは

菊岡 千夏
あつて当然なのであろう。そして、自分にぴったりのことばを探し続け、それが見つけられた時には悩みは自分の中でおさまりをつけることができるようになるのではないだろうか。自分だけのことばを考えていく場所がカウンセリングの一つの機能だと思おうのである。

学生相談室の開室について

場 所	曜 日	相談室	学生相談員	相談日時
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	1 2	谷口奈青理	10時30分～16時00分
	火曜日	1 2	菊岡 千夏	10時30分～16時00分
	水曜日	1	宇佐 晋一 (神経科校医)	第2週・第4週 13時30分～16時00分
		2	佐賀枝夏文	10時30分～14時00分
	木曜日	1 2	讓 西賢 菊岡 千夏	10時30分～16時00分
	金曜日	1 2	菊岡 千夏	10時30分～16時00分

お詫び

前号の『大谷大学広報秋号』の中で誤りがありましたので、次のとおり訂正いたします。

◎ P.34 CD『16/17音平均律 とんでふ!?!』

杉山正治 DESAFINADOS 編集

(誤) ご注文は下記ホームページへ <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/charai>

(正) ご注文は下記ホームページへ サウンドマーケットCUE http://pme.jp/shop/cgi/cue/m_shop.cgi?keyword=ssugiyama

※ なお、CUEで購入する場合、定価税込1,500円+郵送料200円+振込手数料となります。

「大谷大学広報05-春」発行のお知らせ

「大谷大学広報05-春」の発行を4月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

- ①博綜館ピロティエ (博綜館入口横)
- ②学内食堂
- ③各研究室
- ④至誠館 (学生課カウンター前)
- ⑤1号館1階
- ⑥2号館1階

また、大谷大学ホームページから、バックナンバーを含め広報の閲覧が可能です。

http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html

出版物紹介

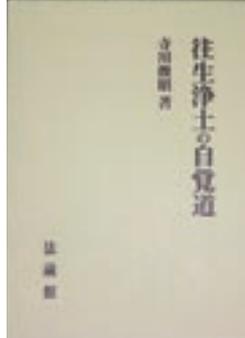
◎黙忍堂文庫 2

『他力の救済—現在安住—』
神戸和磨 著
清澤満之記念会 刊
(2004.10) 55頁



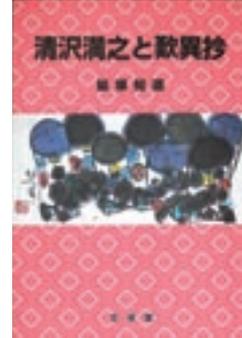
◎『往生浄土の自覚道』

寺川俊昭 著
法蔵館 刊
(2004.10) 334頁



◎『清沢満之と歎異抄』

延塚知道 著
文栄堂 刊
(2004.10) 91頁



◎『こころの取扱い説明書

—こころのサプリメント編—』
佐賀枝夏文 著
三畳間文庫 刊
(2004.11) 47頁



◎『笑いの本地、笑いの本願』

—無知の知のコミュニケーション—』
谷 泰 著
以文社 刊
(2004.11) 254頁



◎伝道ブックス49

『宗祖親鸞聖人に会う』
古田和弘 著
東本願寺出版部 刊
(2004.11) 87頁



◎Buddhismus und Christentum
vor der Herausforderung der
Säkularisierung

箕浦恵了・門脇 健・
Hans-Martin Barth・
Michael Pye 編
EB-Verlag (ドイツ・ハンブルク) 刊
(2004. 6) 195頁

◎rJe Tsong kha pa'i lam rim
chen mo'i lung khungs gsal
byed nyi ma'i stod cha

Khang dkar tshul khrimskal
bzang (白館戒雲)著
西藏仏教文化協会 刊
(2004. 4) 382頁

◎rGya gar gyi tshad ma rig pa'i
lta grub 'phel rim dang tshad
ma rig pa'i lo rgyus

Khang dkar tshul khrimskal
bzang (白館戒雲)著
西藏仏教文化協会 刊
(2004. 5) 365頁

◎『高橋弘次先生古稀記念論集
浄土学佛教学論叢』

高橋弘次先生古稀記念会事務局 編
小川一乗・吉元信行 分担執筆
山喜房佛書林 刊
(2004.11) 全2巻

◎『よみがえる上宮寺の法宝物』

「よみがえる上宮寺の法宝物」
図録編集委員会 編
寺川俊昭・鍵主良敬
安藤 弥 分担執筆
太子山上宮寺 刊
(2004. 3) 174頁

◎『新編安城市史 5 資料編
古代・中世』

安城市史編集委員会 編
安藤 弥 分担執筆
(2004. 5) 834頁

研究室だより

総合研究室から

1月8日(土)から開室します。1月9日(日)、10日(月祝)も開室します。

1月、2月、3月の総合研究室の開室は以下のとおりです。後期試験、卒業式等により変則的

な開室日もあるので、注意してください。

なお、開室日や開室時間の変更は、

学生向け情報提供システム、学内掲示板に掲載します。確認してください。

1月	1
2 3 4 5 6 7 8	
9 10 11 12 13 14 15	
16 17 18 19 20 21 22	
23 24 25 26 27 28 29	
30 31	

2月	1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12	
13 14 15 16 17 18 19	
20 21 22 23 24 25 26	
27 28	

3月	1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12	
13 14 15 16 17 18 19	
20 21 22 23 24 25 26	
27 28 29 30 31	

赤字は響流館の休館日。黒字は、9時開室 19時30分閉室 青字は、10時開室 17時30分閉室 緑字は、9時開室 20時閉室 黄字は、9時開室 18時閉室

※1 3月18日は卒業式のため、15時の閉室予定です。祝賀会等の時間により変更されることがあります。

大学院生より研究室を利用されるみなさまへ

研究室19:30閉室の日は大学院生による運営のもと開室時間を一時間延長します！

既にご存知の方も多いと思いますが、10月20日より19:30以降、大学院生が運営に携わる形で、研究室開室時間の一時間延長が始まりました。さらに、これまでは試行期間ということでしたが、12月からは正式に開室時間の延長が許可されました。

学生による開室時間延長のた

め、時間内の使用フロアの限定・カウンターサービス業務の終了(ノートパソコンの使用不可)等、不自由な点もあるとは思いますが、少しでも快適に、自由に研究室が利用できるよう、先生方や助手の方々と大学院生が話し合った結果ですので、ぜひ多くの方に利用していただきたいと思います。

また、今回の時間延長は、大学側が利用する学生を全面的に信頼してくれた上で、はじめて実現したものですので、運営者として院生が残りますが、利用されるみなさんにも、ご協力をお願いします。

総合研究室
(大学院博士課程一同)

短期仏教科研究室から

○3月中旬に『仏教研究紀要』第27号の発刊を予定しております。ご希望の方は、研究室までご連絡ください。

幼児教育科一般研究室から

○「卒業研究発表会」を1月12日(水)午後4時10分～(第5・6時限)に開催します。授業の一環ですので、必ず全員出席してください。会場は、響流館3Fメディアホールです。
○現在、一般研究室の図書を借りている人は、1月17日(月)までに、必ず返却してください。
○『大谷大学短期大学部幼児教育

科研究紀要』第6号を発行します。幼児教育科の学生の皆さんには、授業のときにお渡しします。
○3月中旬に、今年度2年生が提出した「卒業研究」の要旨集を『卒業研究』第38号として発刊します。2年生には卒業式の日、1年生には次年度のオリエンテーション(4月)のときに、お渡しします。

学会だより

仏教学会

卒業論文梗概発表会：送別懇談会 ※詳細は後日お知らせします。

大谷中学校・大谷高等学校からのお知らせ

大谷中・高等学校の公開講演会を以下に紹介させていただきます。

■高校3年生 卒業記念講演会

高校3年生の卒業を記念して、例年講演会を実施してきましたが、今年度も以下の日時で行います。保護者・卒業生・一般の方々も参加できますので、お知らせいたします。

日 時 2005年1月7日(金)

10:00~11:30

演 題 『私の歩んだ道』

講 師 竹内昌彦先生
(岡山県立盲学校教諭)

場 所 大谷中・高等学校 講堂

■第5回「今熊野セミナー」

本校の学校長の講演をもとに、参加いただいた方々と共に話し合いながらすすめる講座です。本校生徒の保護者の方々、地域にお住まいの方々、そして一般の方々に開かれた講座です。年を追うごと、回を重ねるごとに参加者の人数が増えてきて、関係者一同大変喜んでおります。

日 時 2005年2月1日(火)

14:00~15:30

演 題 『精進—安心して尽くす』

講 師 大谷中・高等学校校長
真城義磨

場 所 大谷中・高等学校
第一会議室

□2005年度 大谷中学・高等学校生徒募集(入学試験)について

大谷中学校(共学)	募集人員 120名
入 試 日	S入試日 1月22日(土) 午前9時開始 (国語・算数・作文)
	A入試日 1月23日(日) 午前9時開始 (国語・算数・理科・社会)
合格発表日	S・A共に1月25日(火) 午前10時 (校内掲示・ホームページでも公表)
出 願 受 付	1月11日(火)~14日(金) (本校事務室または郵送)
大谷高等学校(共学)	募集人員 300名 (バタビア・インテグラル両コース併せて)
入 試 日	2月10日(木) 午前9時開始 (国語・社会・数学・理科・英語)
合格発表日	2月13日(日) 受験生宛に合否結果郵送 (2月14日正午、ホームページでも公表)
出 願 受 付	1月24日(月)~27日(木) (本校事務室または郵送)
大谷高等学校知進寮生徒募集	(バタビア・インテグラル両コース併せて)
募集人員	5名(出願に本校所定の条件あり)
入 試 日	1月16日(日) 午前9時開始 (英語・作文・面接)
出 願 受 付	1月5日(水)~7日(金)

詳しくは本校渉外部までお問い合わせください。 TEL 075-541-1317

九州大谷短期大学からのお知らせ

◆演劇放送コース卒業公演

日本語コミュニケーション学科演劇放送コース25期生卒業公演を下記の通り行います。ぜひお越し下さい。

公演名『パンドラの鐘』

作：野田秀樹

演出：日下部 信

(本学演劇放送コース講師)

照明：稲田智治(同非常勤講師)

音響：今村和雄(同非常勤講師)

美術：福田美穂(同事務職員)

日 時 1月15日(土) 14:00~

19:00~

16日(日) 14:00~

18:00~

17日(月) 19:00~

18日(火) 19:00~

公開舞台稽古

1月9日(日) 14:00~17:00

場 所 本学大谷小劇場

入場無料

◆2005年度一般・社会人入試日程

	出願期間	試験日
一般入試A	1月7日(金)	
社会人2次	〃	2月5日(土)
長期履修2次	1月31日(月)	
一般入試B	2月21日(月)	
社会人3次	〃	3月5日(土)
長期履修3次	3月3日(木)	
一般入試C	3月14日(月)	
社会人4次	〃	3月29日(火)
長期履修4次	3月25日(金)	

※長期履修学生制度については広報室(TEL0942-53-9900)までお問い合わせ下さい。

2005年度学年暦

【前期】

日	月	火	水	木	金	土	行事予定等
					1	2	4月1日(金) ◇学年始 ◇宗祖誕生日
							4日(月) ◇入学式
4	3	4	5	6	7	8	4日(月) ◇オリエンテーション 9日(土) ◇(若葉祭を含む)
	10	11	12	13	14	15	8日(金) ◇釈尊降誕日
月	17	18	19	20	21	22	11日(月) ◇前期授業開始
	24	25	26	27	28	29	14日(木) ◇聴講登録表提出期間
							18日(月) ◇前期学費納入最終日
							20日(水) ◇宗祖御命日勤行・講話
							25日(月) ◇みどりの日
5	1	2	3	4	5	6	29日(金) ◇みどりの日
	8	9	10	11	12	13	5月2日(月) ◇臨時休業日
月	15	16	17	18	19	20	3日(火) ◇憲法記念日
	22	23	24	25	26	27	4日(水) ◇国民の休日
	29	30	31				5日(木) ◇こどもの日
							6日(金) ◇聴講登録確認表配布
							9日(月) ◇登録修正期間
							27日(金) ◇宗祖御命日勤行・講話
							28日(土) ◇補講日
							31日(火) ◇「研究計画書」提出最終日 (修士・博士後期課程第1学年)
6			1	2	3	4	6月1日(水) ◇宗祖誕生会 (午後授業実施)
	5	6	7	8	9	10	25日(土) ◇補講日
月	12	13	14	15	16	17	28日(火) ◇宗祖御命日勤行・講話
	19	20	21	22	23	24	30日(木) ◇「卒業論文・修士論文 卒業研究」提出最終日 (前期卒業・修了予定者)
	26	27	28	29	30		◇「卒業論文・修士論文・卒業 研究題目届」提出最終日 (明年3月卒業・修了予定者)
							7月16日(土) ◇補講日
7	3	4	5	6	7	8	18日(月) ◇海の日=授業実施
	10	11	12	13	14	15	21日(木) ◇前期定期試験
月	17	18	19	20	21	22	29日(金) ◇前期定期試験
	24	25	26	27	28	29	28日(木) ◇宗祖御命日勤行
	31						
							8月1日(月) ◇夏期休暇
8		1	2	3	4	5	
	7	8	9	10	11	12	
月	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30	31			
							9月17日(土) ◇集中講義期間
							5日(月) ◇集中講義期間
							16日(金) ◇敬老の日=授業実施
9				1	2	3	19日(月) ◇後期授業開始
	4	5	6	7	8	9	◇前期履修単位通知書交付
月	11	12	13	14	15	16	23日(金) ◇秋分の日
	18	19	20	21	22	23	28日(水) ◇宗祖御命日勤行・講話
	25	26	27	28	29	30	28日(水) ◇登録修正期間
							30日(金) ◇前期卒業証書授与式 学位記
							◇後期学費納入最終日
							◇前期終了

【後期】

日	月	火	水	木	金	土	行事予定等
						1	
	2	3	4	5	6	7	10月10日(月) ◇体育の日=授業実施
10	9	10	11	12	13	14	10日(月) ◇聴講登録確認表配布
月	16	17	18	19	20	21	12日(水) ◇登録修正確認期間
	23	24	25	26	27	28	13日(木) ◇開学記念日
	30	31					25日(火) ◇宗祖御命日勤行・講話
							29日(土) ◇補講日
							31日(月) ◇「卒業研究」提出最終日 (仏教科・文化学科)
			1	2	3	4	11月3日(木) ◇文化の日
	6	7	8	9	10	11	10日(木) ◇学園祭期間 (予定)
11	13	14	15	16	17	18	14日(月) ◇学園祭期間 (予定)
月	20	21	22	23	24	25	23日(水) ◇勤労感謝の日
	27	28	29	30			26日(土) ◇大学報恩講
							28日(月) ◇宗祖御正忌
							30日(水) ◇「卒業研究」提出最終日 (幼児教育科)
				1	2	3	12月3日(土) ◇補講日
12	4	5	6	7	8	9	12日(月) ◇「修士論文」提出最終日
月	11	12	13	14	15	16	17日(土) ◇補講日
	18	19	20	21	22	23	23日(金) ◇天皇誕生日
	25	26	27	28	29	30	26日(月) ◇冬期休暇
							1月6日(金) ◇宗祖御命日勤行
							12月27日(火) ◇宗祖御命日勤行
1	1	2	3	4	5	6	1月1日(日) ◇元日
	8	9	10	11	12	13	2日(月) ◇振替休日
月	15	16	17	18	19	20	9日(月) ◇成人の日
	22	23	24	25	26	27	10日(火) ◇修正会 ◇授業再開
	29	30	31				11日(水) ◇「卒業論文」提出最終日
							24日(火) ◇後期定期試験
				1	2	3	2月2日(木) ◇宗祖御命日勤行
2	5	6	7	8	9	10	1月27日(金) ◇宗祖御命日勤行
月	12	13	14	15	16	17	2月11日(土) ◇建国記念の日
	19	20	21	22	23	24	28日(火) ◇宗祖御命日勤行 ◇「研究成果報告書」 提出最終日 (博士後期課程)
	26	27	28				
				1	2	3	3月17日(金) ◇卒業証書授与式 学位記
3	5	6	7	8	9	10	
月	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	21日(火) ◇春分の日
	26	27	28	29	30	31	28日(火) ◇宗祖御命日勤行
							31日(金) ◇学年終

【変更点】 授業日数確保のため下記のとおり、祝日に通常授業を、土曜日に補講を実施します。

- ①通常授業実施・・・◇前期：7/18(月曜日=海の日) ◇後期：9/19(月曜日=敬老の日)・10/10(月曜日=体育の日)
②補講日・・・◇前期：5/28(土)・6/25(土)・7/16(土) ◇後期：10/29(土)・12/3(土)・12/17(土)

昨年(2016年)の11月1日、図柄を刷新した3種類の紙幣が発行された。それまでの紙幣は、1984年11月1日に発行されたものであるから、期せずして、ちょうど20年ぶりの改刷となったわけだ。新紙幣の図柄であるが、まず千円札は、表が夏目漱石から野口英世に。彼が黄熱病の研究に尽力したことは広く知られている。裏は丹頂鶴にかわって富士山と桜である。次に五千円札は、表が新渡戸稲造から明治期の小説家・歌人である樋口一葉へ。女性の肖像画は、古くは1881年、明治政府によって発行された紙幣に神功皇后が印刷されたものがあり、近年では、2000年に発行された二千円札の裏に国宝『源氏

物語絵巻』の一場面と共に紫式部が描かれた。ただし、1882年に設立した日本銀行が、85年から紙幣の発行を始めて以来、お札の表に女性の肖像が登場するのは初めてのこととなる。世界的にも女性の肖像画は珍しいという。そして裏も、富士山から尾形光琳の「燕子花図」に変更された。最後に一万円札だが、表は福沢諭吉の続投となり、裏は雉が平等院鳳凰堂の鳳凰像にかわった。

さて、日本における最初の紙幣は、1600年頃に伊勢山田地方で流通した山田羽書(はがき)とされる。これは伊勢神宮の神職である山田御師により発行されたものだが、彼らは伊勢に所属する有力商

人であったのである。こうした私札は、摂津・大和など畿内先進地の豪商によっても発行されたが、江戸幕府の金銀銭貨制度の全国的な展開にしたがって使用をみなくなる。その中で山田羽書だけが、伊勢の宗教性に裏付けられた信用力により、江戸時代を通じて公認されたことは非常に興味深いと言えよう。その後、私札にかわって登場したのが藩札である。その種類には、幕府の三貨制度との関係から金札・銀札・銭札があり、各藩では札奉行と藩札会所を設置・開設し、富農や豪商を札元に登用した。発行の主な理由は、藩の財政窮乏の打開にあったが、場合によっては、正貨兌換の基準を上

SQUARE

話題の広場

新紙幣への思い

平野 寿則



似顔絵：内山智廣

回る発行が行われ、不換紙幣となった藩札は、逆に領内を混乱させる結果となった。それでも藩札の流通を維持できたのは、札元の商人信用に裏付けられていたからであると言われている。

信用と言う点では、今回の改刷の目的は偽造防止であったとされ、紙幣に対する国民の信頼確保がその理由となろう。近年、パソコンや高性能コピー機を駆使した偽札が急増しており、発見される偽札は、2001年の7613枚に対し02年には2万枚を超え、04年11月時点で、すでに1万4千枚に達していたと言う。新紙幣には、旧紙幣にはなかったホログラム・漉(す)き入れパターンなどの最新技術が盛り込まれ、偽造防止に大きな効果が期待されている。とくに、紙幣を傾けると文字や数字が浮かび上がる潜像模様・潜像パール模様

は、米ドルやユーロ紙幣には採用されていない特徴と言うことだ。ただ、昨今はその手口も巧妙さを増し、本物の一部を切り取ったり、磁気インクの仕組みを解読するなどの方法もあるようで、様々なケースにどこまで耐性があるのか注目されよう。先に江戸時代の藩札について述べたが、やはり流通の拡大に伴って偽造札が出回るようになった。各藩では偽造者やその使用者に対し、死罪・追放処分などの厳罰を定めて対処したが、一方では、今日と同様に、種々の偽造防止対策が講じられていたようだ。たとえば、図柄の意匠に工夫をこらしたものの、文字や加判、模様や色を透かし漉きしたものなどは、今日の偽造防止技術の先駆とも言える。その他にも、いくつかの版木を組み合わせて印刷したものの、オランダ語や中国語、また梵

字などの特殊文字を用いたものなどが数多くみられる。

今回、紙幣が改刷されて新しい図柄が話題になる一方、その経済波及効果が期待されている。具体的には、20兆円とも言われる「タンス預金」の動向である。眠っていた旧紙幣が金融機関に持ち込まれ、それを消費や投資に向かわせたい、そんな狙いがあるようだ。新紙幣発行に伴って、発行残高の増減や日銀の国債購入余力への影響など、何やら難しい問題も言われているが、ともかく、日々の生活が混乱することのないように万全を期してもらいたい。いつの時代でも、国家の「信用」が問われているのであるから。

(ひらの としり
専任講師 日本近世史・仏教史)